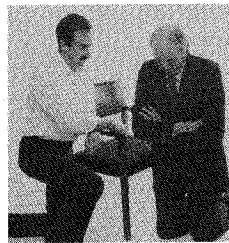


聖徒の道

5 1982





末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スベンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー
ゴードン・B・ヒンクレー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・バック
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト
ニール・A・マックスウェル

顧問

M・ラッセル・バラード
ローレン・C・ダン
レックス・D・ビネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー
F・エンツィオ・ブッシェ

編集長

M・ラッセル・バラード

国際機関誌

編集主幹：

ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：

デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：

ボニー・ソーングダース

デザイナー：

ロジャー・ギリング

制作：

ノーマン・ブライス

も く じ

模範の力	N・エルドン・タナー	1
憎しみを乗り越えて	ジェフリー・パトラ	5
あなたの妻を愛しなさい	ジェームズ・E・ファウスト	8
幸福な両親、幸福な子供	エド・ローリッセン アン・ローリッセン	11
マルタ	ポール・W・ロビンソン	16
ハチのすの荷車	アイリーン・C・ブラック	22
どうぶつえん		26
ヒーバー・J・グラント		28
思うだけでは不十分である	レックス・C・リープ	30
アルコール中毒	ジェームズ・R・グッドリッチ	32
妙なる調べ	キャサリン・ルーベック	39
ローカルページ		44

聖徒の道 5 月号

発行所	末日聖徒イエス・キリスト教会 東京都港区南麻布 5-10-30
印刷所	株式会社 精興社
配 送	東京ディストリビューション・センター 東京都世田谷区上用賀 4-9-19
定 価	年間予約 2,200円 海外予約 2,200円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 045AJA Printed in Japan

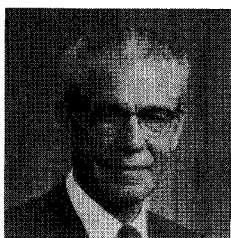
郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

模範の力

第一副管長

N・エルドン・タナー



今までに何度か気づいたことで、最近特に私の注意をひいたことがあります。それは、時と場所とを問わず末日聖徒がニュースに登場すると、それが政府高官に任命されたニュースであろうと、あるいは法律を破ったニュースであろうと、必ずと言っていいほど「モルモン」との関係が強調されるということです。ほかの宗派の人がそのような扱いを受けることはめったにありません。私はこれを称賛の言葉と受け取っています。なぜなら、これは世の人人がしだいに私たちの立場に注意を向け、多くの期待を寄せている証拠だからです。

長期的に見ると、私たちが世の人々にどのような模範を示すかによって、友人を得るか、敵を作るかが決まります。最も大切なことは、一人一人が教会の標準や福音の

教えを忠実に守り、救い主イエス・キリストの戒めに従って生活することです。そうすれば、私たちの立場はおのずと明らかになります。

模範の力を通して何かを成し遂げた話を読むと、私はいつも心を動かされます。最近読んだある話を紹介したいと思います。10年ほど前にある非教会員の方がスーパーマーケットの副店長をしていました。その店では夜間の業務に高校生のアルバイトを何人か雇いました。副店長は次のように語っています。

「どういういきさつでモルモンの女の子を雇うことになったのか、覚えていません。16歳か17歳でした。名前は思い出せませんが、あの子の模範は決して忘れることはないでしょう。まれに見るほど正直で、信頼

できたし、身だしなみもきちんとしていて、清潔でした。とにかく言葉では言い尽くせません。ほかの子たちと比べると、きわ立って見えたのです。」

まもなくその店では彼女の友達をひとり雇いました。その子もまた模範的な従業員になりました。ふたりとも親しみやすく思いやりのある態度で、他の従業員や客に接しました。

「私はすぐに、彼女らモルモンの友達を、もっとできるだけ多く雇いたいと思うようになりました。一人一人を見ても、全体として見ても、今まで店で働いてくれた中で最も素晴らしい女の子でした。がっかりするようなことや、信頼を裏切るようなことは、ただの一度もしませんでした。みんなだれが見ても雇いたいと思うような最高の従業員でした。」

ある晩のことです、彼は夕食にピザを食べたいと思いました。しかし、どうしても店を離れることができません。そこで、モルモンの少女に頼んで買いに行ってもらいました。ところが、帰ってきた彼女の車を見ると、事故で少し傷ついていたのです。彼は、自分の用事で行ってもらったのだから弁償すると言いましたが、彼女は断りました。あくまで彼女自身の責任だと言うのです。「あのような人格を身につけた若人が、彼女の年代に大勢いるとは思えません。決して忘れることはできません。」

この男性は、すでにレッスンを受けていた息子の紹介で、末日聖徒の宣教師と最近会い、何度か集会に出席しました。「10年前にあの少女たちを見て感心したことが、教会で会ったモルモンの大人たちにも見られ

ました。家族を大切にするのが気に入りましたし、私がこれまで会った人の中で、一番幸福そうな人々でした。」

私たち全員が周囲の人々にこのような印象を与えることができれば、どんなに素晴らしいことでしょうか。最近の記事の中に「模範は改宗の源泉」という見出しの改宗談がありました。教会員の模範を通して改宗したという話はよく耳にしますが、こ

長期的に見ると、
私たちが世の人々に
どのような模範を示すかによって、
友人を得るか、
敵を作るかが決まります。

で考えていただきたいのです。もし私たち全員が模範的な生活をして周囲の人々に良い影響を与えるならば、どのようなことになるでしょうか。

私たちは恵まれてイエス・キリストの福音を知り、その教えを理解し、神のみもとで永遠に生活するためにこの地上で自らを備えています。しかし、世の人々は永遠の生命の意味するところを知りません。ですから私たちは、この輝かしい原則をすべての国民に教える特権と責任とを負っているのです。

両親が福音に対する知識と証を持ち、それに従って生活している家庭、そのような

家庭で育つ子供は最も祝福されています。両親は子供に対する責任を自覚して、永遠の喜びと成功と幸福とをもたらす物事を行なうように教え、子供が不死不滅と永遠の生命に備えられるように助けます。主は次のように命じておられます。

「また、シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば、その子供8歳の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。

また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むことを教えざるべからず。」(教義と聖約68:25, 28)

私たちに授けられた責任、特権あるいは祝福の中で、ふさわしい両親になること以上に大いなるものはありません。私は大人になってからというもの、自分が「善い父母から生まれた」ことを、いつも天父に感謝してきました。両親は、私が肉体的には彼らの子供でも、霊的には神の子供であり、両親だけでなく神からもふさわしい生活をするように期待されていると、教えてくれました。そして、福音の教えに従って生活するようにいつも努めて、模範を示してくれました。両親はあらゆる面において正直、高潔、公正であり、私にも同じことを求めました。両親は福音が真実であることを知っており、神の戒めに従って生活する決意をしていたのです。

自分たちが行なう備えのできていないことは、決して私に要求しませんでした。私が求められたことは、いつも正しいことを行ない、天父の前に正しく歩み、友人や同

僚から信頼される生活をし、道徳的に自らを清くし、安息日を聖く保ち、知恵の言葉を厳密に守り、什分の一と断食献金を納め、そして定期的に祈ることでした。それも、天父がそばにいて私の祈りを聞いて下さり、必要な答えと力と導きを与えて下さると信じて祈ることでした。私は正しいことを行なうには両親に従えばいいといつも思っていました。両親は私や周囲の人々に公正に振る舞いました。どのような問題でも相談に行ける両親を持った子供は、何と祝福されていることでしょうか。

私がアロン神権者の時代に私の監督であり最良の友であった父は、神権を尊ぶことを教えてくれました。父は神権そのものの重要性和、イエス・キリストのみ名によって行動する権能を持つことの大切さ、それに私たちが従うべき唯一完全な模範について強調しました。主の大いなる愛を感じ取り、主が私たちの罪を贖うために死なれたことを常に覚えるならば、主が教えて下さった方法に従って生活したいと思うことでしよう。

働く時も、祈る時も、学校で学ぶ時も、あるいは霊的な必要に心をくだしている時も、私たちの模範は周囲の人々に影響を及ぼしているのです。イエス・キリストの福音を、また教会に属していることを恥してはなりません。恐れずに真理を擁護し、時には私たちに降りかかってくる迫害に耐えることもできなくてはなりません。ここでも模範を示すのです。救い主の言葉を引き出してみましょう。

「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである。天国は彼らのものである

る。

わたしのために人々があなたがたをのしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。

喜び、よるこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」(マタイ 5:10-12)

私たちは現在、新たな脅威、新たなチャレンジに直面しています。と同時にコミュニケーションの方法も新しくなり、山の上のあかりになるという、今まで以上に大いなる機会に直面しています。山上の垂訓の中から救い主の言葉をさらに引用してみましょう。

「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。

また、あかりをつけて、それを^{στρόγγυλος} 餅の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照らされるのである。

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ 5:14-16)

ある少年がランタンを手にとって、霧の降るロンドンの町を歩いていました。すると霧の向こうから声がしました。「1 シリング払うから、ホテルまで案内してくれないか。」「はい、承知しました。」

少年はランタンを高く掲げると、霧の中をホテルに向かって歩き始めました。やがてホテルの前に着いて少年が立ち止まると、後ろからひとりではなく、4人の男が次々に現われて1 シリングずつ渡していきました。そのうちの3人は、ランタンの光を見て、何も言わずについてきたのです。真理と光へ導く人についても、同じことが言えます。

私たちは模範によって、暗黒の世に光を掲げることができるのです。



ホームティーチャーへの提案

1. 模範の力について個人的な体験を話す。
家族の人に体験談を話してもらう。
2. このメッセージの中に、家族と一緒に読める聖句や引用はないだろうか。ほかに読んでみたいと思う聖句はないだろうか。
3. 家族が周囲の人に模範を示す機会につ

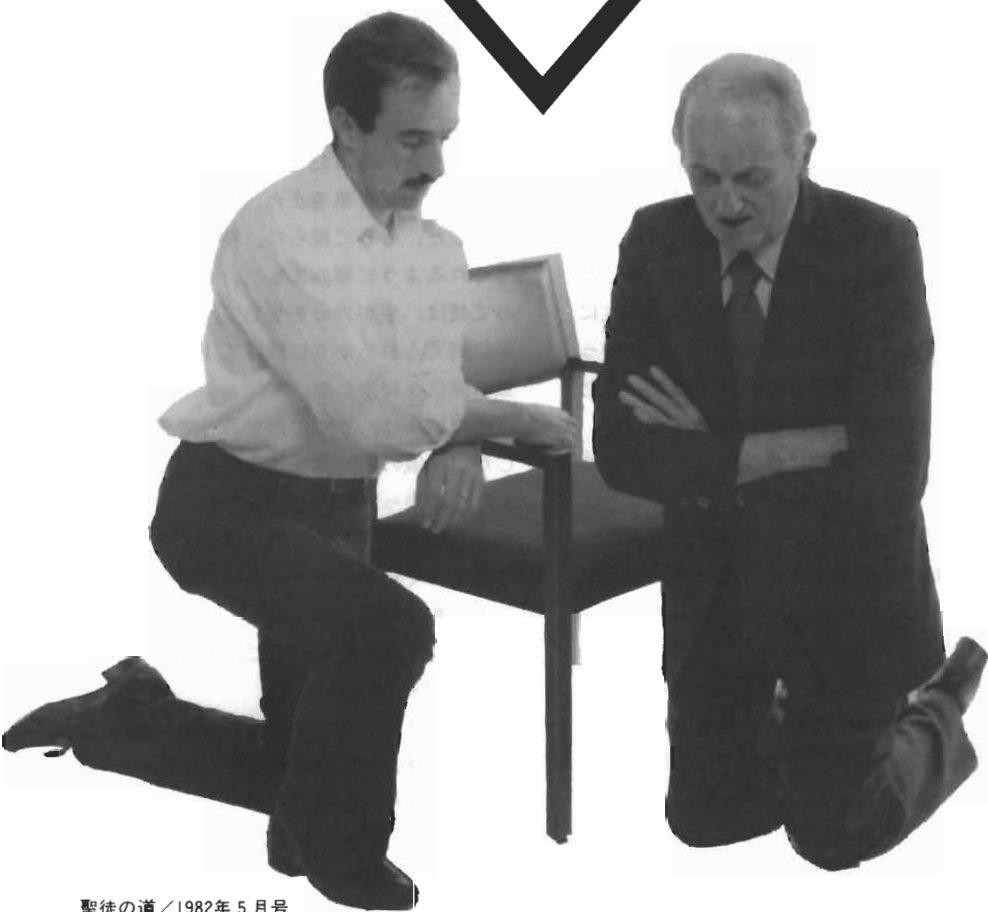
いて話し合う。模範が力強い教師であるのはなぜだろうか。

4. 正しい模範を示すことと、独善的なすることの違いについて話し合う。内面的な思いや態度と、外面的な行ないが調和することが大切なのはなぜだろうか。
5. 訪問する前に家長と話し合っておく必要があるだろうか。模範の力について定員会指導者や監督から家長に宛てられたメッセージがあるだろうか。



憎しみを乗り越えて

ジェフリー・バトラー



人間の大きさを判断するひとつの基準は、その人間が一生を通じて、試練や苦境にどう対処するかということです。あなたは困難にぶつかると自分自身や同じ人間仲間、また神に対する信頼をなくしてしまう人でしょうか。それとも、どんなに悲しい出来事でも乗り越えて、人に本来備わっている勇気をそれとなく示す人でしょうか。

私の隣人に、ちょっと想像できないようなつらい状況のなかで悲劇に対処した人がいます。そこで、これから彼が示してくれた模範を紹介したいと思います。

彼のプライバシーを守るために、ブラウン兄弟と呼ぶことにしましょう。彼は今から30年前にミネソタで教会に改宗しました。彼の改宗のきっかけとなったのは、人生に対する情熱と人々に対する優しい心をもって、ひとりの末日聖徒の教師の模範でした。その後、彼女の彼に対する無条件の愛が、彼にバプテスマを受ける備えをさせたのです。やがてふたりは結婚し、3人の娘とひとりの息子に恵まれました。その後、ブラウン姉妹の父親が世を去ったため、母親が同居することになりました。

ひどく寒い冬のある日、ブラウン兄弟は仕事から帰ってくると家族に、もっと暖かい土地に引越すつもりだと話しました。そしてハワイに飛び、仕事を見つけて、家族を呼び寄せました。

ブラウン兄弟の信仰の試しが始まったの

は、1980年3月17日です。その日、妻と長女、姑の乗っていた車がトラックに正面衝突され、3人とも死んでしまったのです。25歳のトラックの運転手は酒を飲んでいたので、左折箇所は実際には800メートルほど先にあるのに、誤って対向車線に突っ込んだのでした。トラックの運転手は無傷でした。

ブラウン兄弟は、警察からの電話でこの悲しい事故を知りました。彼は泣きながら、この悲しみに耐える強さを与えて下さいと祈りました。それから通りに出て行った彼は、ワード部のふたりの会員が車で通りかかったのを見て車を止め、事故のことを話しました。そして彼らに、特別の祝福をしてくれるように頼みました。その祝福によって彼は、主が自分を愛して下さい、苦しみに耐えられるように助けて下さるという強い確信を得ました。

その約束は、すぐに形となって表われました。葬儀の時、話をするに決めた彼は、私たちが失ったものを受け入れ、それに対処できるようにと、模範によってその方法を教えてくれたのです。自分が苦しみのどん底にありながらも、私たちの苦しみを和らげたいと思った彼の心に、私はすっかり圧倒されました。

最後の話し手は、ブラウン兄弟の話の精神を受け継いで、出席者全員に、とりわけ悲しみに暮れる遺族に対し、不幸なトラックの運転手に対して怒りの気持ちが生じる

かもしれないが、それと戦うようにと訴えました。

それから2日後、ブラウン兄弟は、めっちゃめっちゃにつぶれた車の中の遺留品を整理するという、つらい仕事に直面しました。どんなにか苦しいことだったに違いありません。愛する家族の命を奪った事故の惨状を目のあたりにし、保険会社に報告を出すために事故を思い出さなければならなかったからです。できるものならどこかに押しやってしまいたいと思っていたのですから、それをこらえることで彼はすっかり参ってしまいそうでした。

その夜、苦しみの中で、彼はトラックの運転手に怒りを覚えている自分に気がつきました。彼は祈りました。でもまだその気持ちは消え去りませんでした。彼は自分のそうした気持ちに負けたくなかったので、意を決して車に乗り、その若い運転手の家に行きました。そして一緒に腰をおろすと、「私は君のため、私のために祈ってきた。そして、怒りの気持ちをなくそうと努力してきた」とだけ言いました。トラックの運転手は、少しびくびくして落ち着いた風でしたが、私の隣人が話しかけても口をつぐんだままでした。そこでブラウン兄弟が一緒に祈ってくれるように言うと、彼はしぶしぶなずいて、ひざまずきました。ブラウン兄弟は祈りの中で、悲しみを抑えようとして傷ついた心の内をさらけ出し、彼も自分も共にこの悲しい事故に対処できる

ようにと主に願い求めました。運転手は依然として黙ったままでした。

ふたりが祈り終わって立ち上がった時、私の隣人は若い運転手の顔が緊張して青ざめてはいるものの、依然として無表情であることに気づきました。そこでブラウン兄弟は彼のそばに寄り、腕をまわして穏やかにほっとしたような声で言いました。「私は君を愛している。私は君を赦します。もういいんだよ。だから君にいつまでもこのままの気持ちでいてほしくないと思っている。」若者は顔をびくびくさせながら黙って立っていましたが、突然すすり泣いたかと思うと、心の中の悲しみを放出するかのようになり、ブラウン兄弟の腕の中で泣きくずれました。若者の妻はこの愛の輪の中に加わると、私の隣人にこう言ったそうです。「主人は今度の事故のことでひどく打ちひしがれていました。事故を起こしてから主人が自分を出せたのはきょうが初めてです。」

もちろんブラウン兄弟の信仰の試しは終わった訳ではありません。彼はまだこれから先何年も、愛する家族のいない生活をしていかなければなりません。毎日耐えていかなければならないのです。しかしこの愛の行ないによって、彼は人生を立て直すことができました。そして彼を知る人は、「キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る」(エペソ4:13)ということがどういふことなのかをかいま見ることができたのです。

あなたの 妻を 愛しなさい

十二使徒定員会会員
ジェームズ・E・ファウスト

私 は最近、自分自身の人生の中で妻が果たしている役割について、かなり真剣に考える機会がありました。それは十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老から「もし奥さんがおられなかったとしたら、長老は今どうなっていたと思いますか」と聞かれたことが発端でした。「今の私はなかったと思います」とすぐに答えることもできたでしょうが、そんなことは彼には先刻承知だったのです。

彼の言葉は私の心をとらえ、それから24時間、私は親切で優しい妻の助けと励ましがなかったら、自分はどうなっていたらうかと考えました。それはたとえ頭の中で考えるだけにしても、いささかショッキングなことでした。

しかし今、パッカー長老の質問に正直に答えたとしたら、妻がいなかったら非常に多くの失敗をしていたでしょうと言わざるを得ないと思います。私も一度は結婚していますが、ただそれだけのことであって、とても結婚について大層なことを言える人間ではありません、しかし素晴らしい妻に感謝しています。彼女と結婚したのは間違いではありませんでした。私たちの結婚生

活が一番だなどと言う積もりは毛頭ありません。ただ、素晴らしい人を妻にしたと言うことはできます。

良い妻を持った人に与えられる数々の祝福のひとつとして、すべての人が必要としているものの中でも最も大切なもの、すなわち愛をその妻から得られるということがあります。私がこれまでの半生の間に受けてきた、最も素晴らしい無条件の愛は、妻、母、義母、祖母、娘、そしてかわいい孫娘など、家族の中の優しい女性たちが示してくれた愛です。

一人前になった私をずっと支えてきた最も大きな力は、妻に対して抱いてきた、変わることをない、絶対的な無条件の愛でした。妻との間の神聖な絆は、私の人生にこの上ない祝福をもたらしてきました。この祝福がなかったとしたら、果たして自分の人生がどのようなものになっていたか、とても考えられません。

マリオン・G・ロムニー副管長は1979年にアイダ・ロムニー姉妹を亡くしましたが、その数日後に聞いた言葉は私の心の中に今



ジェームズ・E・ファウスト長老

妻がいなかったら
非常に多くの失敗を
していたでしょう。

なお印象深く残っています。神殿で開かれた十二使徒定員会の席上、ロムニー副管長はこう言ったのです。「アイダがこの世を去った時、私の中から大切なものが無くなりました。支えとなっていた力が無くなってしまったのです。」墓地の傍らで副管長は私に言いました。「奥さんを大切にしておいて下さい。行ける所には必ず一緒に連れて行くようにした方がいいです。そうできなくなる時がいずれ来るのですから。」

私は、多くの教会幹部が夫人たちに対して示す優しさと思いやりの模範にいつも感謝しています。私がステーキ部長の任にあった頃に、七十人第一定員会の故S・デルワース・ヤング長老が示してくれた模範をよく覚えています。当時、最初の奥さんであるグラディス夫人はひどい中風を患い、身の回りのこともままならない状態でした。そして、1964年に亡くなるまで、長い間その状態が続きました。ヤング兄弟は着ている物を替えてやったり、食事を口に運んでやったり、労を惜しまず、夫人の面倒を見ました。私はこれまで、ヤング兄弟がグラディス夫人に示したほど大きな、優しさと思いやりの模範をほかに見たことがありません。彼は一度、「グラディスの身に起きたことは、世間一般の人から見れば最悪のことでしょうが、私にとっては、この上なく素晴らしい機会でした。心が広くなりましたし、愛することの本当の意味を知りました」と話してくれました。

多くの人が仕事で成功したいと腐心し、かなりの時間と労力をつぎ込んでいます。しかし、私はヤング兄弟のような愛と思いやりに満ちた模範を通して、仕事で成功を収めるためにはまず家庭の中で、夫あるいは父親として成功を収める必要があること



ボイド・K・パッカー長老

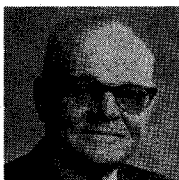
もし奥さんがおられなかったとしたら、
長老は今どうなっていたと
思いますか。

を学びました。

とは言いながら、愛すべき家族よりも仕事上の同僚に対して多くの時間を割き、心を向けている人があまりにも多過ぎます。私は、自分が外でしていたどんな仕事よりも、妻が家の中でしていたことの方が大切だったのだと気づくようになりました。

また私は、妻の座にある女性たちがいつも夫に対して愛と感謝の言葉、親しい交わりを求め、自分たちがしていることを認めて欲しいと願っていることにも思い至るようになりました。もしそういう願いに応えていくなら、私たち男性は家庭の中において、敬い尊ばれ、大切にされるようになるでしょう。私たちは、挫けることのないように励ましを与えてくれる、尽きせぬ愛を受けるようになるでしょう。そしてこの愛は、自己の内面を深く見つめ、自己の内にある最高のものを引き出すように私たちを促していくのです。

私たちは夫として、自分たちの伴侶が直感力、信仰、愛などの賜を神から祝福されていることを再認識する必要があります。



マリオン・G・ロムニー副管長

奥さんを大切にしておいて下さい。
 そうでなくなる時が
 いずれ来るのですから。

彼女たちは何の神権の職も受けていませんが、神権による祝福は受けているのです。

そして、私たちを優しく叱咤する時、彼女たちはその祝福を通して、私たちに大きな恵みをもたらし、また、私たちが神聖な召しに伴う義務を、さらによく果たしていけるようにすることもできるのです。その愛を込めた叱咤激励は、私たち男性を鍛え、人間的に未熟な部分を磨き上げてくれるひとつの要素です。

N・エルドン・タナー副管長のお嬢さんであるイザベルさんが、副管長についてこう言ったことがあります。「母と結婚した当時の父は本当に田舎育ちそのままの人でした。」そして、よくタナー姉妹が兄弟に対して愛の込められた提案をしていたことに話が及び、そんな時タナー副管長はきまって「君がそうすべきだと言うなら、私もそうする積もりだ」と言っていたと話しました。良き妻と主の声に耳を傾けることによって、タナー副管長という偉大な人物が形造られてきたのです。

優しく誠実な妻の助けなくしては大して

良い働きもできない、これは明らかな事実です。私たちは妻に感謝の心を表わすことをあまりにも怠ってはいないでしょうか。当然と考えているのではないのでしょうか。自分の妻を敬いもせず、大事にもせず、主に対して誉れを求めたり、自分のしていることを受け入れてくれるように期待したりすることができるでしょうか。

自分の神権を通して注ぐべき祝福を妻子に与えることをせず、それをとどめてしまっている人は、神権の権能を正しく行使しているとは言えません。神権の祝福は男性あるいは夫のためだけのものではありません。神権の祝福は夫婦の永遠の絆の中において最も大きな花を咲かせ、先に述べた素晴らしい祝福を私たちの子供にもたやすのです。その祝福こそ従順を通して得られる永遠の生命、救い、昇栄に至るための鍵です。

私たちは妻や子供たちとのつながりの中で、霊性をさらに高めるべく努力しなければなりません。主と共に歩むなら、確かに、全き平安、幸福、一致、安らぎが与えられるのです。

私は福音が真実であることを知っています。また、日々どのような態度で妻に接するかが、福音にそった生活を送る上で大きな比重を占めていることを知っています。永遠の伴侶なしに、すべての力を完全に自分のものとすることはできません。最終的な裁きは、私たちがどういう人間、夫、父親であったか、また、子供をどう育てたかによって決まるのではないのでしょうか。

兄弟の皆さん、私たちは「汝ら誠心を以て妻を愛してこれと結び合うべし。その他の者に愛着することなかれ」(教義と聖約42:22)という主の戒めに従って生きなければならないのです。

ハンセン兄弟姉妹は、よい親御さんです。おふたりは子供さんを愛していらっしゃる、長い時間、子供さんたちといっしょに過ごします。それに、学校の勉強

を手伝ってあげたり、子供さんたちの才能を伸ばせるよう励ましたりもしています。家庭の夕べや活動も、定期的に行なっています。

幸福な両親、幸福な子供

エド・ローリッセン
アン・ローリッセン



しかし、その結婚生活からは、一体感とか幸福感といったものが失なわれていると感ずることが、よくあるのです。

多くの夫たち、妻たちがそうであるように、ハンセン兄弟姉妹も、子供たちが幸福であれば、自動的に親も幸福だと思っています。だから、自分たちの時間や力も、家族のために使っているのです。しかし、私たちは、その逆も真であることを発見しました。幸福な両親というものは、一般に子供たちを幸福にしているということです。

両親が夫婦の絆を強くすることに重きを置く家庭では、日を経るに従って夫婦の愛の絆が強まり、子供たちは安心感を覚えるようになります。レッスンなどで聞くだけではなく、親の模範を見ることによって、子供たちは、忍耐、寛容、親切、愛、赦しなどを学ぶのです。

ですから、快活でしっかりした子供を育てる最上の方法のひとつは、幸福でしっかりとした結婚生活を築くことなのです。

何年か前の扶助協会のレッスンの中で、夫婦の関係が子供たちに大きな影響力を持つことが、強調されていました。

「結婚は家庭内のあらゆる関係の基です。夫と妻の関係は、家庭内に起こるすべての事柄の基礎となります。……

子供がごく幼いときから成長するまで、家族環境、そしてもっと具体的には父親と母親の関係が、子供にとって他の人々と接する際の手本となります。両親の関係の中に子供がどのように含まれるか、または両親の關係に自分はどのように影響を及ぼしていると感じているかなどは、子供の人格形成にとって最も大きな要素であると言えるでしょう。……

このように夫に愛と心遣いを示す時に、

子供は自分も受け入れられていると解釈します。……

夫に対して競争意識をもってではなく、協力的に応えるときに、子供も人の顔色をうかがったり、意地悪になったりすることなく、協力的で正々堂々とした態度をとるようになります。……

結婚と人生一般に対して一層の熱情を持つ時に、将来に対する正しい態度を身につけるのに必要な手本を子供に示すことができます。」

このことは、私たちの家族にも言えることがわかりました。結婚当初のことですが、夫のエドは、仕事で何かがあったらしく、気むずかしい顔をして帰って来ることがよくありました。エドが家へ入って来ると、妻のアンは一瞬、何か彼をいら立たせるようなことをしてしまったかしらと思いしました。そして、エドが自分のことを怒っているのではないことを何度も確かめたものでした。私たちは、私たち夫婦の間に意見の不一致がある時、子供たちも同じような反応を示すことに気づきました。子供たちは、自分たちが、私たち夫婦の問題に何らかの責任があると感じているようです。

同様に、私たちが温かい親し気な会話を交わしていると安らかな安心した気持ちになるらしいのです。そして、私たちの夫婦関係がうまく行っていると、より協力的になり、思いやりも深くなるのです。

夫婦は、どうしたら結婚生活をよりよいものにすることができるでしょうか。私たちは、基本的な戒めにだけ従っていれば、それで幸福な結婚生活が約束されると思いがちです。しかし、結婚生活には、それ以上の原則を応用し、主の導きを得ることが必要なのです。そして、夫も妻も特に自分

たちの関係を向上させることに重きを置き、必要に応じて、時間と努力を惜しまないようにしなければなりません。

ステーキ部長であり、カウンセリングを職業としているカールフレッド・プロデリック兄弟はこう言っています。「皆さんは私の所に来てこうおっしゃいます。『プロデリック部長、私たちは正直に什分の一を納めていますし、知恵の言葉も守っています。それに、教会の集会にはすべて出席していますし、責任もちゃんと果たしています。でも結婚生活はうまくいかないんです。どうしてでしょう。』私は、次の聖句を思い出してもらおうようにしています。『そもそも創世の以前より天に於て定められた一つの^{ききう}変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。』（教義と聖約 130：20—21）結婚生活を改善するための律法は、教義と聖約第 121 章、ローマ人への手紙第 12 章、その他いろいろな箇所書かれています。」

人間対人間の原則は、自分一個人の感情や態度の問題ではなく、他の人の気持ちも考慮しなければならない問題なので、個人の義に関する原則を学び、それに従うことよりも、時として難しい場合があります。幸福な好ましい関係を築くには、それ相應の原則に従わなければならないからです。

おそらく、すべての結婚関係の原則を最も簡潔に述べているのは、エペソ人への手紙の次の箇所だと思います。

「妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。」

「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、

妻を愛しなさい。」（エペソ 5：22、25）

この箇所を読むと、結婚の絆を強める上で、とても大切な 3 つの方法がわかります。女性^{メーデー}は、どのようにして主を尊ぶように夫を尊ぶことを学ぶことができるでしょうか。また、男性は、どのようにして、キリストが教会を愛されたように妻を愛することを学ぶことができるでしょうか。その答えは、キリスト御自身の模範から知ることができます。（1）主は私たちのことを、常に気遣って下さいました。（2）主は私たちのことを知っておられました。（3）主は、その生涯を私たちのために捧げられました。

夫も妻も、救い主の模範に従って、お互いに思いやりをもって親切に振る舞い、よく知り合い、互いに仕え、助け合わなければなりません。思いやりを持ち、理解し、仕え合う環境の中でこそ、夫も妻も主に心を向け、お互いの愛や、個人と家族の幸福を増して行くことができます。

また私たちは、お互いがいたわり、理解



し、助け合わなければならない特に大切な時があることにも気づきました。例えばそれは、家族のだれかが死亡した時、家族の中に病人がいる時、夫夫妻のどちらかが何か間違ったことをしてしまった時、あるいは疲れていたり、心配事がかかえていたりする時、夫または妻が教会の責任で忙しい時、来客の時、日曜日、休暇中、祝祭日などです。

お互いにもっとよく理解し感謝し合えるよう、主の助けを求めて祈ることも大切なことです。また、自分たちの祝福師の祝福、個人史誌、家族史誌などを、時折、祈りの気持ちをもって読むことも、とても助けになることがわかりました。それに、お互いの家族とも仲良くなり、理解を深めようと

する心からの試みも、お互いの理解を深めることになります。

私たちの結婚生活の場合、子供を育てるという責任が増し加わったこと、仕事や教会の責任を行なうことなどで、私たちの時間はみんなあつという間になくなってしまいました。優しい気持ちや親切な心遣いは、夫婦でよく考え、協力し合って、定期的にふたりきりになれる時間を持たなければ、たやすく踏みつけにされ、片隅に押しやられてしまいます。

何年か前のことですが、私たちは毎週デートをすることが必要だという結論に達しました。私たちは散歩に行きます。丘にハイキングに行ったり、病気の友達の家の掃除をしたりもします。一緒に家計を組んだ



り、図書館へ行ったり、子供たちのために外出やプレゼントの計画を立てたりもします。予算が許せば、遊びに出かけたり、映画を見たり、時には友達と一緒に過ごしたりもします。

そして、活気にあふれて家に帰って来ると、子供たちはまた私たちから何か興味深いものを感じると言うことにも、私たちは気づきました。

もうひとつ、欠くことのできない時間は、週に一度の夫婦計画会です。これを始めてから1年近くになりますが、今では、これをしなかった時は一体どうしていたんだろうと思うほどです。夫婦計画会を開いていると、自分が何かをしている時、相手は何をしているのだろうかという興味が以前よりもわいて来るようになります。それに、自分が相手にとっても、子供たちにとっても大切な存在なのだという自覚ができます。また、私たち自身や子供たちを見つめ直す時間もできますし、私たちの問題を解決するために、どんなことをすればよいかを決めることもできます。例えば、子供たちのひとりが悪いことをしているのに気づいた時、私たちは、自分たちが何をしなければならぬかを話し合いました。私たちは時々、家族史誌や手紙のような大切なものを書くのを忘れていたことに気づいて、そのような仕事をする時間を計画したりもします。また、私たちのデートや、子供たちと共に過ごす特別な時間、家庭の夕べの詳細、日曜日の活動、ホームティーチングや家庭訪問の調整もします。最初のうち、私たちはよく疲れてしまったり、計画を実行することにはずばらだったりしました。そして結局、だれかが病気でない限り、計画したことは行なうという規則を作ったのです。そして

私たちは、その規則に従っている時は、従わない時よりもはるかに幸福であることに気づきました。

私たちにとっては、日曜日がこの週に一度の計画会をするのに最も良い日です。普通は、15分から30分位ですが、時には大きな行事があったり、普通では起こらないような問題が持ち上がったたりして、それ以上の話し合いが必要になり、時間が延びることもあります。

私たちは、自分たちの結婚生活、すなわち私たちの最も大切な人間関係を改善するために働くことが、どんなに必要な問題であるかを発見したのです。お互いを大事にすることやお互いに仕え合うことに時間とエネルギーを使う時、私たちは愛を深め合い、家族や他の人々との関係をより満足のいくものにすることができるようになりました。夫婦の間でお互いに悪感情を抱いている時には、子供たちや他の人々に、温かい、親切的、穏和な気持ちを持とうとしても、難しいでしょう。心を尽くして祈り、キリストが私たちにして下さいのように、お互いのために持てる力を全部捧げて働く時に、問題は解決するのです。

今現在、私たちは子供にかかりきりかも知れませんが、子供たちはいつか私たちの手を離れ、伴侶と結ばれるのです。もし、ふさわしければ、私たちはずっと永遠にわたって、子供たちと密接な関係をもって暮らすことができます。しかし、最も親しい関係を結ぶのは、常に夫婦です。お互いの絆を強める上で味わたった成功は、いつまでも役に立つでしょう。もし、子供たちに結婚生活をよりよいものにしていく模範という貴い賜を与えるならば、私たちの心にはより大きな幸福が生まれることでしょう。

マルタ

ポール・W・ロビンソン



「卒業式の時に着るガウンと帽子を注文しなくちゃ。」マルタはドアを入って来るなり言いました。私の里子のマルタは18歳で、高校を卒業するのです。

8年前に私たちの家へやって来た、知恵遅れの10歳の少女が高校を卒業するなんてだれが想像したでしょう。それに教会に入って、高校もまだ卒業していないのに外国で伝道する責任を受けるなんて、一体だれが想像できたと言うのでしょうか。

この8年間というもの、私たちはマルタが自分を縛りつけている縄目を断ち切るために、非常な努力をするのを見守ってきました。ソーシャルワーカーが私たちの所へ彼女を連れて来る10日前、彼女の父親は彼女を病院の救護室にかつぎ込んだのでした。そこに居合わせた看護婦は、背中のおどく殴打したような痕に気づいて、家族サービス部に電話をかけました。それを見た父親は取り乱して、すぐに手当てが済まないとなると、少女を見捨てて行ってしまったのです。そこで家族サービス部では、私たちにしばらくの間彼女の面倒を見てくれるように頼んできました。

マルタが私たちの家にやって来た最初の頃は、いろいろな面で大変でした。彼女はほとんどスペイン語しか話しませんでしたし、歩く時は足をひきずるようにして歩きました。マルタはいつも床をじっと見つめて、ほとんど聞き取れないような声で話しました。家族サービス部の心理学者たちは、彼女を知恵遅れと診断しました。私も心理学を学んだ者なのですが、専門家の目を借りるまでもなく、一見して彼らの意見は正しいと思いました。

2歳と3歳と4歳のマルタの新しい弟たちは、彼女を家へ大喜びで迎え入れるが早いか、はしゃぎながら彼女につきまとい、服を引っ張ったりしながら、彼女の寝室にまでついて行きました。3人の弟たちはベッドの上に跳び乗って見せたり、跳びはねて壁の絵にさわって見せたりしていました。が、マルタは黙って立っていました。翌朝、朝食が済んだ後も裏庭でマイクとキットが三輪車でマルタのまわりをぐるぐる回って競争していたのですが、マルタは黙って立っているばかりでした。

それから何日か、彼女を子供たちの輪の中に入れようと、ありとあらゆることをしてみました。その結果、マルタはようやく妻のキャロルになつき始め、以来いつもキャロルの側にひっそりとついてまわるようになりました。

しばらくして、私はマルタを近くの小学校の特殊学級に入れました。ある午後のことでした。私が帰宅すると、キャロルがドアの所で待っていました。

「子供たちが、マルタをぶったの。」キャロルは目に涙をいっぱいためて言いました。

「だれが、ぶったんだい。」私は尋ねました。

「学校の男の子たちよ。マルタをいじめて、泣かせたの。マルタは、『あんたなんか嫌いよ』って叫んだの。そうしたら男の子たちはマルタを押し倒して、服をやぶいたの。それでもマルタが泣かないので、マルタをぶったのよ。」キャロルは、まくし立てました。

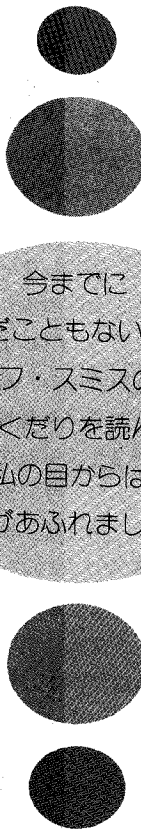
「あんたなんか嫌いよ。」それはマルタが私の家へ来て覚えた、たったひとつの英語

でした。その言葉が、いじめっ子たちから身を守るただひとつの武器だったことは、言うまでもありません。彼女には、こうするしか方法がなかったのです。

私たちは、学校がそのふたりの男の子に与える罰などは、何らマルタの問題を解決するものにはならないことがわかっていました。そのことはそれで終わっても、また同じようなことが起こることは目に見えていました。それに、その何かが起こる時、私たちがその場に居合わせないかも知れないのです。そこで、私たちは、いじめられた時の別の対処の仕方、つまり、にっこりほほえみ返すことを教えることにしました。

まず夕食のテーブルを囲んで、家族でゲームをすることから始めました。順番に何かおもしろい方法で家族のみんなをいじるゲームです。最初に私たちは、明らかに真実ではないことを言いました。「お前の耳はそうの耳みたいに大きいね」とか「お前の手は長くて、地面にとどきそうだね」とかいう具合です。マルタがそれを聞いてにっこりすると、家族みんなが彼女をほめるのです。こうして何週間も経たないうちに、マルタは本当にいじめられても、笑顔を返すようになりました。それから、マルタがいじめられて困るという問題は、ほどなくして影をひそめてしまいました。

マルタがいじめられて困るというのは、私たちが抱えた数ある問題の、ほんのひとつに過ぎません。マルタには身の回りを清潔にするという習慣がありませんでしたし、学習には意欲を示しませんでした。それに、マルタは人前では決して泣きませんでしたが、夜中にすすり泣いているのを、



今までに
読んだこともないような
ジョセフ・スミスの物語の
美しくだりを読んだ時、
私の目からは
涙があふれました。

私たちはよく耳にしました。

マルタが私たちと暮らすようになって、最初の数カ月の間に、家族サービス部では彼女の過去について調べることができました。マルタはプエルトリコで生まれ、両親は彼女が幼い頃に別れてしまい、その後何年かの間は親戚から親戚へ、たらい回しにされていたのです。彼女のおばさんに当たるブルカは、他のだれよりもよくマルタの世話をし、マルタを愛していたようでした。

マルタが10歳の時、父親はカリフォルニアへ行きました。マルタも一緒でしたが、

それは、マルタが一緒だと国からの福祉援助が多くなることをあてこんでのことでした。しかし、彼はマルタには悪霊がついているのだと信じ込んでいて、「それを追い出そうとして」何度か彼女を殴打したのです。カリフォルニアへの旅の途中で、マルタは病気になる、父親は私たちの市の病院に立ち寄ったのでした。

ひとたびマルタを家へ迎えてしまうと、キャロルと私はだれもがよく知っている「わな」にまんまとはまってしまいました。マルタがかわいそうになり、その気持ちに溺れてしまったのです。例えばある時、マルタとマイクとキットが、いたずらをしました。箴言22:15と29:17にあるように、私はふたりの男の子のお尻をたたいてベッドにほうり込みました。しかし、マルタがそれまでに受けて来た虐待を思うと、私にはそれができず、ただベッドへ追いやってただけでした。

ところがその夜遅く、マルタは「どうして私のお尻をたたかなかったの」と尋ねました。この問いかけは、私の心に重く響きました。私は、里親が犯し勝ちな最も許し難い過ちを犯していたのです。私は、自分の子供と同じように、マルタを扱ってはいませんでした。私たちは話し合いました。そして、お尻をたたかないことがマルタへの特別な愛情のしるしだと考えていたにもかかわらず、マルタの方は、自分は他の子供たちと同じように愛されていないと感じていたことに気づいたのです。もう、そのようなことは決してすまい、と私は自分に言い聞かせました。

この経験から、私はマルタのいたずらを

大目に見るというような態度は、マルタの成長を助けるどころか、妨害しているのだということに気づきました。身体に障害を持つ子供にリハビリテーションも受けさせず、子供自身の力を出させないようにしてしまっている過保護な親のように、私たちも、マルタが自分で障害を克服するのを助けるどころか、妨げようとしていたのです。

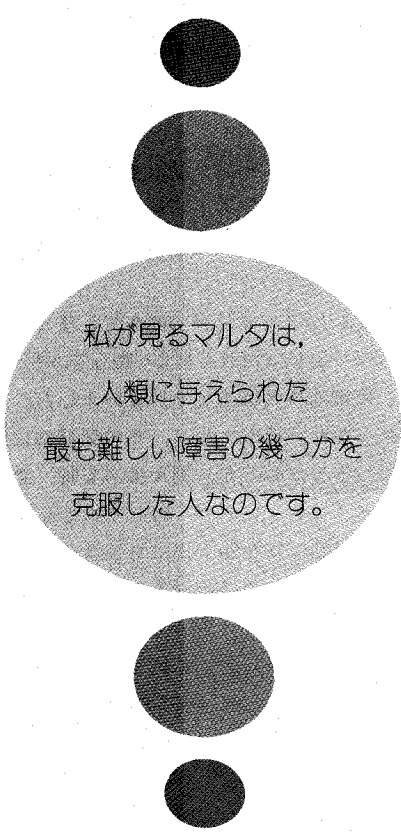
このことをよく頭に入れて、キャロルと私は、マルタにはどんな才能があるのか見つけ出そうとし始めました。私たちは、毎日、何時間もかけて、自分の周囲で何が起ころうと無感動で、何事も自分で学び自分でするということをしないこの少女に教え込もうとしたのです。マヒした足を持つ子供に歩いてみるようにと何度も繰り返し励ます臨床医のように、私たちは彼女の能力を使ってみるようにと繰り返し繰り返しチャレンジしたのです。まず彼女にできることから始めました。髪の毛をとかす、服を着る、少しの間絵本を見る、というようなことです。こうして、やがて他の仕事も教えられるようになりました。私たちはたびたび多く要求し過ぎていることに気づき、その要求を撤回して、やり直しました。徐々にではありましたが、マルタは努力するようになり、成し遂げようと奮戦するようになりました。そして、自分で髪を洗い、床を整え、服にアイロンをかけ、本を読むようになったのです。

14歳の時、彼女はついに心理的な殻を破りました。その時を境に、私たちはもう彼女を励ましたりはしませんでした。彼女の内なるものが、知識を求めて彼女をかり立てたのです。彼女自身、自分がそれでもな

お特異な問題を背負っていることに気づいていましたが、どのオリンピックの水泳選手にも負けないようなつらいトレーニングを始めたのです。体中のすべての筋肉を使う術を学ぶには、彼女のクラスメートの5倍も努力が必要だったのに、彼女はそれをやり遂げました。彼女は自分でセミナーの全時限をとったので、彼女が教会に入ることを妨げるものは、何もありませんでした。

里親として、私たちが彼女のバプテスマを受けたいという常に変わらぬ気持ちにどう応えたらよいのかは、難しい問題でした。私たちは、州の後見人としての期限が切れたら、彼女をプエルトリコに帰さなければならないことを知っていました。もし私たちが彼女にバプテスマを施したら、彼女の親戚の人々が、マルタは強制的に教会に入れたのだと文句を言ったりはしないでしょうか。彼女は、自分の友達が皆教会員だからという理由だけで、バプテスマを望んでいるのではないのでしょうか。彼女は、本当に自分が望んでいることを理解する能力があるのでしょうか。キャロルと私は、マルタが18歳になるまで待たなければならない、という結論に達しました。

ある夜のことでした。子供たちが皆ベッドに入ってしまったから、キャロルがマルタの書いた手紙を持って、やって来ました。マルタは、キャロルにその手紙の文が文法的に間違っていないかチェックしてくれるように頼んだのです。その手紙の2番目の段落は、こんな風に始まっていました。「ブルカ、あなたは正しい教会に入っています。あなたは、モルモン教会に入ら



私が見るマルタは、
人類に与えられた
最も難しい障害の幾つかを
克服した人なのです。

なければなりません。ジョセフ・スミスという名の少年がいたことは知っているでしょう……。」今までに読んだこともないような、ジョセフ・スミスの物語の美しいくだりを読んだ時、私の目からは涙があふれました。

妻の方を向きながら、私は言いました。「マルタは、バプテスマを受ける準備ができていますよ。」その時、私の心には、マルタが福音に証を持っていることに何の疑いも起こりませんでした。ただひとつ残された問題は、彼女のおばさんのブルカに、マルタがバプテスマを受けた場合、親戚の中で

問題が起こらないかどうか尋ねることだけでした。ブルカは、何度もマルタをブエルトリコへ返して欲しいと、頼んで来ていました。彼女はマルタにとっては名乗り出てくれた、ただひとりの身寄りでしたが、その彼女がついにバプテスマの許可をくれました。

こうしてマルタは、1978年3月にバプテスマを受け、そして5月に祝福師の祝福を受けました。ところが、その中に彼女は彼女の家族に福音を伝える器であると書かれていたのです。キャロルと私は目を疑いました。そして、またもや彼女は私たちの目を開かせてくれたのです。

ブルカは、1カ月程の間マルタを訪ねて来てもよいかと手紙を書いてよこしました。ブルカは6月にやって来ました。彼女は英語が話せませんし、私たちもスペイン語を知りませんでした。マルタも、かつて知っていたスペイン語を忘れてしまっていました。そこで、私たちはスペイン語を話す宣教師たちに通訳をしてもらいました。ブルカの滞在中、私たちは、ブリガム・ヤング大学やテンプルスクエアの訪問者センターを案内してまわり、1週間のキャンプにも出かけました。私たちは、ブルカと大の仲良しになり、ブルカはそれからさらに2カ月も滞在し、マルタとモルモン経について、いつも話し合っていました。ブルカは、帰り際にこう言いました。「私は、もうマルタにブエルトリコへ帰って来いとは言いませんよ。ここに本当の家族がいるんだもの。でも、時々マルタが、私たちの所に来てくれるといいんだけどねえ。」

それから数カ月、ブルカと私たち家族は次第に何通もの手紙を取り交わすようになりましたが、教会については一言も触れませんでした。ブルカは独身で、母親と妹と一緒に暮らしていました。ある日のこと、妻は興奮しながら、私にブルカからの手紙を見せました。その手紙は、こんな言葉で始まっていました。

「親愛なるキャロルとポール

今朝、とても朝早く、家に帰って来ました。手紙を書くのが待ち切れませんでした。私は、たった今、サン・ファンでバプテスマを受けて帰って来たのです……。」

今年、マルタは高校を卒業し、ブルカがマルタのおばあちゃんを連れて、やって来ます。どんなひとときになるでしょう。卒業式に出席する人々は、クラスの他の生徒たちと何も変わった所のないひとりの十代の少女を目にするでしょう。しかし私が見るマルタは、人類に与えられた最も難しい障害の幾つかを克服した人なのです。そして、どうして自分は他の人々と違う存在として造られたのか、それに、どうして信仰を持って大きなチャレンジに立ち向かわなければならないのかと、かつて尋ねたひとりの娘を見るでしょう。私は、いじめられ、あざけられても、すべての人々に愛をもって接した、ひとりの娘を見るでしょう。また、自分の家族に対する愛で心をふくらませたひとりの娘を見ることでしょう。

マルタのおばあちゃんは、初めて自分の本当の孫娘に会うのです。そして、もしマルタが自分の道を選ぶなら、おばあちゃんも宣教師たちに会うことでしょう。



小さなお友だちへ



ハチのすの荷車にぐるま

お話：アイリーン・C・ブラック

絵：シャウナ・ムーニー



「おいで、ウイラ。いいものを
見せてあげるよ。」おじい
ちゃん、よんでいます。

ウイラは、どうしようかな、と
思いました。なぜって、おじいちゃん
のそばには、わらで作ったハチのす
があるのです。

「おいでしたら。ハチのやつは、
お前をさしたりはしないよ。きょう

は、ミツあつめて、大いそがしさ。」

ウイラは、そおと、おじいちゃん
のそばに行きました。見ると、ハ
チがむれになって、すの外がわにあ
つまっています。

おじいちゃんは、いいました。「す
の中がいっぱいになっちまったんじ
ゃ。じゃから、新しいむれを作るん
じゃよ。女王バチが出て来たら、そ

いつについて、たくさんのハチがと
んで行く。とんで行っちゃうと、新
しい女王^{じようおう}バチがタマゴからかえって、
中にのこっているハチのためにタマ
ゴをうむんじゃ。」

「それで、あのハチたちは、どこ
へ行くの。」

「たぶん、近くの木^きへ行くだろう
よ。ハチのやつはそこにあつまって、
新しいすを見^みつけるために、ていさ
つたいをおくるんじゃ。おじいちゃ
んはな、ちゃんとすを作^{つく}っておいた
から、そのすに、あのハチたちをお
びきよせて、またこの荷車^{はしや}にのせる
んじゃよ。」

「どうやって、新しいすに入れる
の。」ウイラはききました。

「ハチのやつらが小さいえだにあ
つまったら、えだを切^きって、すの上^{うへ}
ところにもって来るんじゃ。そしてす
をさかさまにして、ハチを中^{うち}へ入れ
てしまうのさ。」

ハチが何千^{なんせん}びきもいるところに付
くなんて、こわいなあ、とウイラは
思^{おも}いました。おじいちゃんは、木の
ぼりなんか、できません。もしかし
たら、おじいちゃんは、ウイラにた
のむつもりではないでしょうか。

おじいちゃんは、いいました。「ソ
ルトレークまでは、まだまだじゃが、
あそこには、ミツバチがい^いないそう
じゃよ。じゃから、くだ物^{もの}の木^きの授
粉^{けん}（花^{はな}のメシベにオシベ^{おしべ}の花粉^{かふん}をつ
けること）をたすけてくれるミツバ
チを、つれて行^いかなきゃならんのだ。
ウイラ、ハチのあつかい^{かた}方を、よく
おぼえておいてくれよ。わしは、ハ
チのことばかり、やつちゃあおれん
のじゃから。」

その日^ひの午後^{ごご}、ウイラはほろ馬車^{ばしや}
のかげにすわって、おじいちゃんが
ハチのすを作るのを見ていました。

おじいちゃんは、いいました。「こ
いつの作り^{つく}方は、わしのお父^{とう}さんか
らならたんじゃよ。おじいちゃん
のお父^{とう}さんほな、オランダ^{うみ}から海^{うみ}
をわたって、ミツバチをつれて来たん
じゃよ。」

「ラエレド人^{じん}みたいね。」おじい
ちゃんは、うなづきました。

「ラエレド人^{じん}は、テゼレトもつれ
て行^いった。テゼレトというのは、ミ
ツバチのことだを書いてあつたつけ
な。」

つぎの日^ひの朝^{あさ}、お田^{あき}さんがハチミ
ツのような色^{いろ}のかみ^{かみ}の毛^けをとかして





いるあいだ、ウイラは、ほろ馬車^{ばしや}の
中にすわっていました。ウイラは、
いいました。「ねえ、お田さん。わた
し、ハチこわいな。ハチにさされた
時のこと、わすれられないんだ。」

すると、お田^{かあ}さんはいいました。
「おじいちゃんは、ハチのことをよ
く知っているの。だから、おじい
ちゃんのいう通りにすれば、だいじや
うぶよ。」

「そんなこといったって、こわい
んだもの。」ウイラは、ぶつぶついい
ました。

「時には、こわいってことも、い
いことよ。こわくないのは、おバカ
さんだけですものね。ゆう気のある
子は、こわくても、やってみる子よ。」

ウイラは、お田^{かあ}さんが、あんだか
みの毛を、金色^{きんいろ}のかみかざりにくる
んでしまうのを見ながら、だまって、
すわっていました。

と、とつぜんお田^{かあ}さんがいいま
した。「ほら、ハチがうなってる。」
ウイラは、馬車^{ばしや}をとび出して、荷車^{にぐるま}
に雲のようにむらがっているミツバ
チを見に行きました。ウイラは、大
声^{こゑ}でいいました。「おじいちゃんをよ
んできてよ。わたし、ミツバチをお

いかけなくちゃ。」

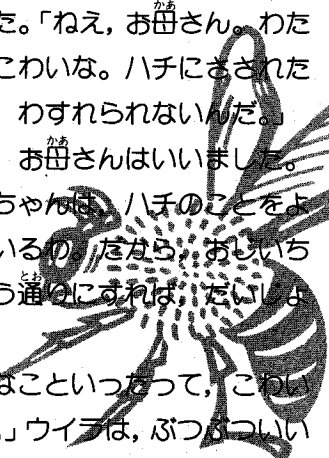
ミツバチは、川のそばの大きな木
の方へ、とんで行きました。ウイラ
は、一生けんめい、おいかけました。
ミツバチは、ウイラの頭の上の木
のうたに、いつばいむらがっています。
ウイラは、大声^{おおこゑ}をはりあげて、おじ
いちゃんをよびました。

おじいちゃんは、新しいハチのす
と、木のいたをもつてかけつけて来
ました。ハチのすの中には、手ぶく
ろと、あみをかぶせてある大きなぼ
うしがはいっていました。

おじいちゃんは、うす目でハチの
むれを見ながら、いいました。「ウイ
ラ、お前は、ゆう気のある子じゃ。あ
の高いところまで、のぼれるかい。」
ウイラは、のぼれると思^{おも}いました。
でも、荷干^{ひかん}びきものハチを見ると、
ぞつとしてしまいました。

おじいちゃんは、ウイラにぼうし
をかぶせました。それから、首^{くび}やか
たに、きつちりとあみをかぶせまし
た。ウイラは、手ぶくろをはめて、
おじいちゃんがポケットから出した
ナイフを、手にもちました。

おじいちゃんは、いいました。「よ
くお聞き。ハチは今^{いま}とつともうれし



がっているんじゃ。ミツをいっぱいもってるからな。しかし、ハチをえだからふりおとしたりしちゃあ、いけないよ。そうすると、またとんで行っちゃうからな。」

ウイラは、木にのぼって、ハチがむらがつているえだに手をのばしました。すると、ミツバチはウイラの手ぶくろやブラウスのそでに、はい上^{あが}って来^うました。それに、頭^{かぶ}の上でも、ほうしからたれ^き下がったあみのあたりでも、ブンブンうなっています。

ウイラは、やっとのことで、そのえだを切りました。そのときです。手ぶくろの中にミツバチが入^{はい}って来て、チクツとウイラの手をさしました。ウイラは、びっくりして、その木のえだをおとしてしまいました。でも、おじいちゃんは、きょうにそれをうけとめて、さつとハチのすの中^{なか}に入れてしまいました。そして、すをさかさまにして、いたの上^うにのせました。

おじいちゃんは、ウイラのふくについたハチをとるのを手つだいながら、いいました。「もう、だいじょうぶだ。夕方^{ゆうがた}までには、ハチのやつはみんな中^{なか}に入^{はい}ってしまうじゃろう。

そうしたら、このハチのすを荷車^{にこ}にもって行こう。」

その夜^{よる}おそく、ウイラはハチのすをはこぶ手つだいをしながら、お田^{かあ}さんのいったことは本^{ほん}当^{とう}だな、と思^{おも}いました。

「しかし、お前はゆうかんじゃつたよ、ウイラ。ごほうびに、このハチのすをあげような。」おじいちゃんはい、いいました。

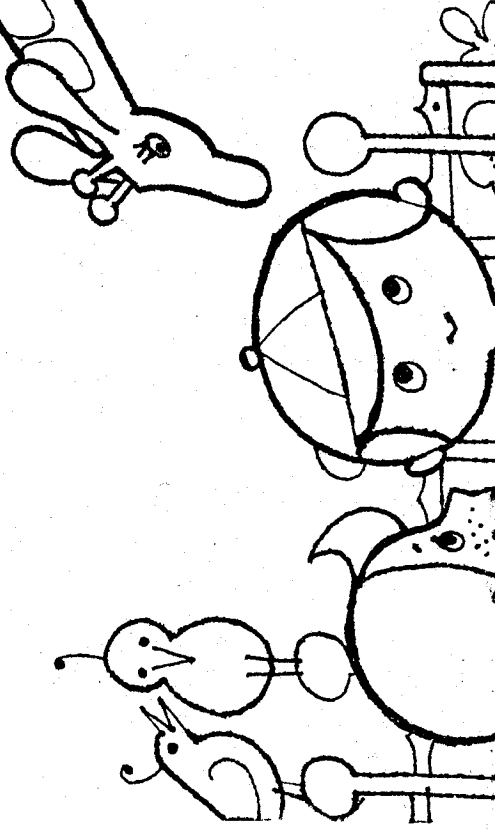
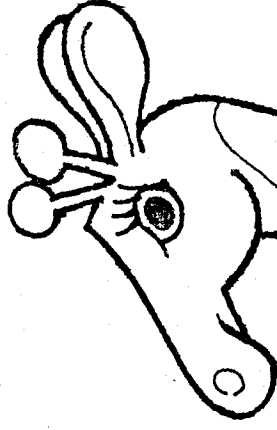
ハチのすを荷車^{にこ}につけてしまうと、ウイラは、うれしそうにいいました。「ねえ、おじいちゃん。ジエレド^{じん}人^{にん}みたいに、わたしたちもこのミツバチを、デゼレト^でってよぶことにしない？」

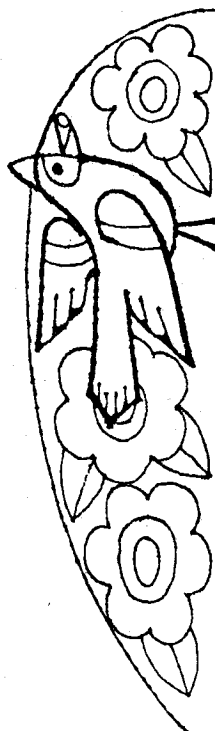
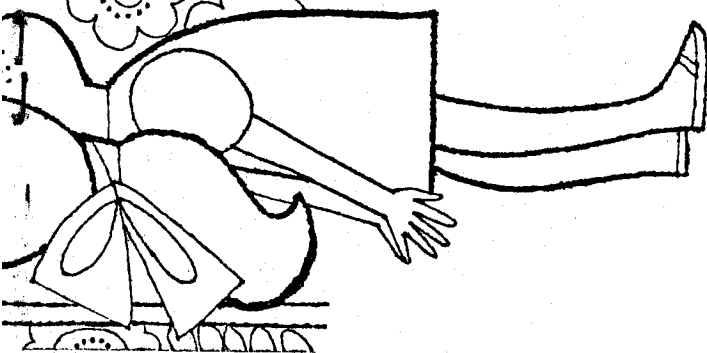
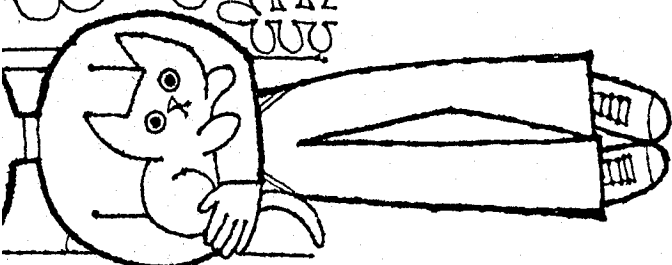
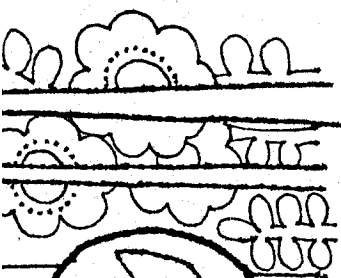
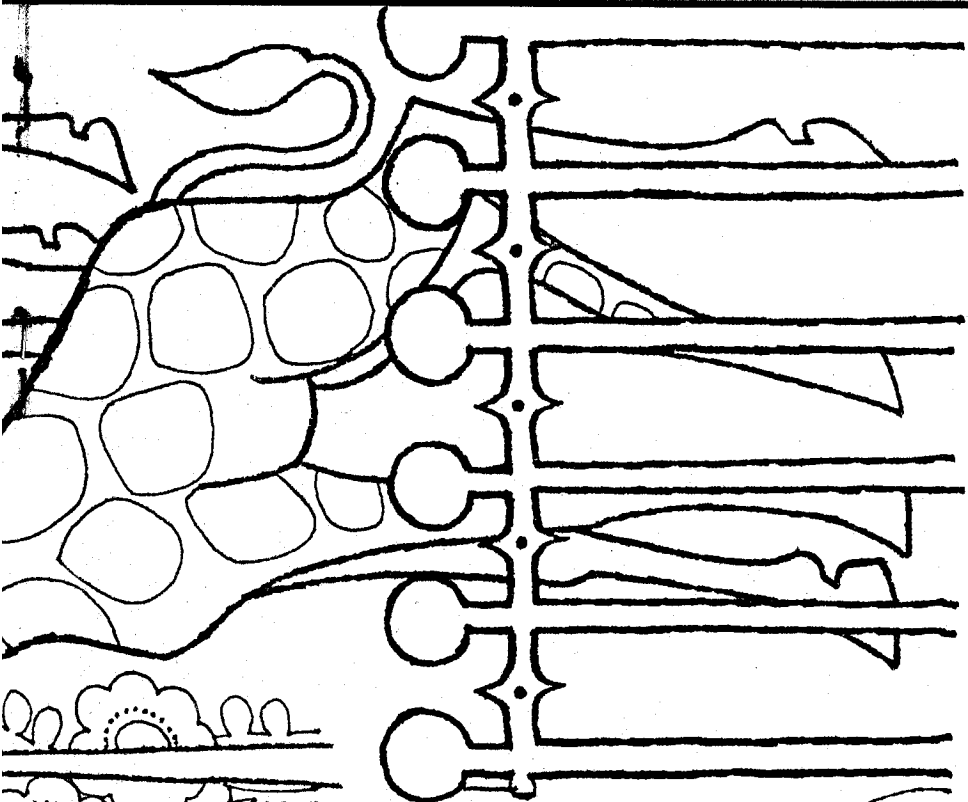
「そいつはいい。」おじいちゃんは、ほうしをぬいで、頭^{かぶ}をさすりました。

「デゼレト、いい名前だ。」

つぎの日の朝^{あさ}早く、荷車^{にこ}をほろ馬車^ばの後^{のち}につけて、しゅっぱつのじゅんぴかできました。おじいちゃんは、ハチのすをしつと見^みていました。「デゼレト」おじいちゃんはい、うれしそうにそういつて、歩^{ある}きはじめました。ウイラは、ハチにさされたところを、さわってみました。もう、ずいぶんよくなっていました。

どうぶつえんにいった
おともだちや
どうぶつたちに
いろをぬってください。
なんしよくつかえるかな。

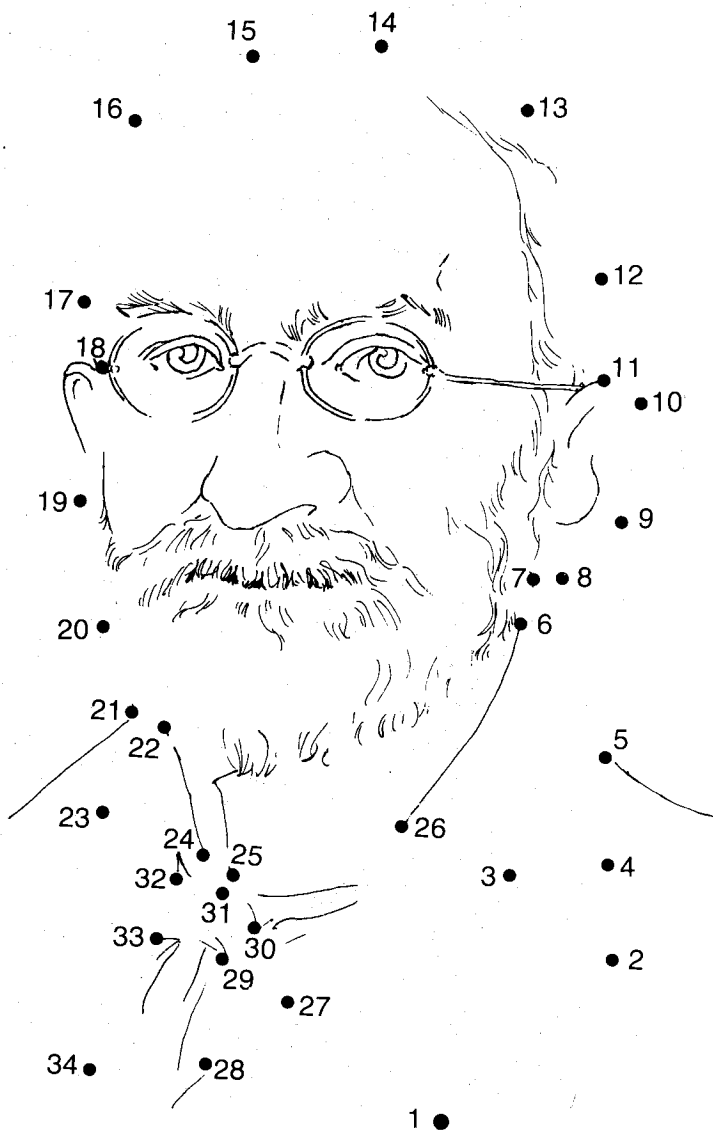






ヒーバー・J・グラント

1856-1945



ヒーパー・ジェティー・グラン
トが生まれてたったの9日
に、お父さんは、しんでしまいま
した。ジェティーのお父さんは、すば
らしいせんきょうしで、ブリガム・
ヤング大管長の第二副管長でした。
そして、ソルトレーク市の、さいし
よの市長さんでもありました。

ジェティーのお母さんは、ひとり
でジェティーをそだててくれました。

6さいのころ、ジェティーは、走っ
てくるそりに、とびのるのがすきで
した。ある日のことです。ジェティ
ーは、ブリガム・ヤング大管長のそ
りに、とびのつてしまいました。お
となになってから、ジェティー（グ
ラント大管長）は、こう書いていま
す。「そりがあんまりはやいので、わ
たしは、とびおりられなくなってし
まいました。……ヤング大管長は、
わたしがそりにぶらさがっているの
に気づいて、あわててさげびました。
「アイザック兄弟、とめてください。」
アイザック兄弟は、そりをとめて、
わたしを前のせきにのせてくれまし
た。ヤング大管長は、わたしの名前
と、すんでいるところをききました。
そして、とてもやさしく、ヤング大
管長がどんなにわたしのお父さんを

あいしていたか、わたしのお父さん
が、どんなによい人だったかを話
してくれました。」

それからというもの、ジェティー
は、ヤング大管長のじむしよに、よ
く出かけて行くようになりました。
ジェティー（グラント大管長）は、
そのころのことを、こう書いていま
す。「わたしは、ヤング大管長をお父
さんのように、思うようになりました。
わたしは、それまで、お父さん
がどんなものなのか、知らなかった
のです。」

ジェティーは、教会でも、会社で
も、一生けんめいはたらきました。
そして、23さいのときステーク部長
になり、25さいのとき十二使徒にな
りました。1901年には、日本に新し
い伝道部をひらきました。

そして、1918年に教会の大管長に
なり、26年ものあいだ、大管長とし
てはたらいたのでした。

グラント大管長は、れいてきな力
があり、じむのしごとが、とてもじ
ょうずだったので、教会はどんどん
大きくなりました。グラント大管長
は、1945年に88さいで世をさりまし
た。

思うだけでは不十分である

レックス・C・リーブ

ワ イオミングでのある秋の日のことだった。青空に高くそびえた雄大なティートンの峰が、ジャクソン湖を鏡にして、その見事な姿を映し出していた。絶景である。岩だらけのスネーク川を160キロにわたって下るカヌー大冒険旅行をするのに、これほど美しい歓迎があるだろうか。スネーク川はその名の通り、野生生物がたくさん生息する荒野をへびのようにうねって流れていた。そこには道もなければ、人の通った跡さえも見あたらない。

第19スカウト隊のリーダーである父親と16歳の息子たちは、カヌー冒険旅行の出発に備えて、スネーク川のモラン側の岸で待っていた。興奮は高まり、心臓の鼓動もいつになく早いようだった。

日焼けした背の高い、川下りの経験のある19歳の青年ふたりが私たちのガイドをしてくれるようになっていた。ひとりが先頭に立ち、もうひとりが最後から追い立てるという具合に。彼らの指示と警告の一言一句が、どんな些細なことも聞きもらすまいとする耳に吸い込まれていった。彼らから、うずについての説明があった。うずに巻き込まれると、抜け出せなくなってしまうのである。これを聞くと、さすがにだれもが一瞬の不安を隠しきれなかった。また、波や急流などによるあわだった部分への接近とそれの乗り越え方についても説明があった。指示の中で再三強調されたのは、「何をする時にも、カヌーのバランスを失って

はならない」ということだった。私たちは、ガイドから指示されたことにはすべて従おうと決心したつもりだった。つまり、左右等しくかき進み、カヌーのバランスがとりやすいよう、またこぎやすいようにいつもひざ立ちの姿勢を取るようになっていた。

グループのリーダーとして私は、ガイドの安全対策を聞きながら、考え直すべき点があるような気がした。私は数日前のニュースを思い出していた。ある父親が、救命ジャケットをきちんと着ていたにもかかわらず、カヌーが急流に入ったところで川に落ち、岩に頭をぶつけて救助が間に合わずおぼれてしまったということだった。

先頭のガイドは慣れた手つきでカヌーを川に浮かべると、楽々とすべり出して行った。その後を父親と息子のカヌーが順に続いた。実にうるわしい日だった。澄みきった空気、ところどころ白い雲のたなびく青い空、これがあたりの美しさを一層引き立てていた。川の水は澄んでいて、ゆっくりと流れていた。トウヒの木と松が草やかん木と一緒に、川が曲がるたびに芸術的な美しさをかもし出す。初めの10マイル(16キロ)は本当に楽しい川下りで、恐れや不安は吹き飛んでしまった。

前方に目をやると、本流に注ぐ別な流れが見えた。うず巻きに注意という指示があったので、合流点に近づくにつれ、細心の注意を払うようになった。すると前方で「見ろ、ムーサーだ」と叫ぶ声がした。私はムー

スを目見たいと思い、ぐるっと向きを変えて、大きな手のひら状の角を持ったムースをちらっと見た。と、その時、私はバランスを失って頭からスネーク川に突っ込んでしまったのである。

冷たい水だった。岩もゴロゴロしていた。私はなんとか水面に顔を出した。いろいろなことが心を駆け巡った。「息子のデイクはどこだろう。カヌーはどこだ。櫓は見つかるだろうか。」

岸に向かって泳ぐと、目の前に岸へ泳ぐデイクの姿があった。私は帽子も、ポケットに入れておいたサンオイルやサングラスも落としてしまったが、冷たい水から上がって、再びカヌーに乗り、皆についていくことができた時にはほっとした。

その後の私たちは、「見ろ、ムースが群らがっている」と言われても、振り返るようなことはしなかった。もう前方しか見ることができなかったのである。それから先は、急流であわだつたところが何マイルかあったが、何とか無事に乗り切ることができた。景色を見るゆとりなどあったものではない。実際、一カ所はものすごい急流で、切り抜けようとしたカヌーが1そう後方に転覆してしまった。息子よりもずっと重い父親が後方に乗っていたからである。彼らはカヌーのバランスを狂わせるつもりはなかったのに、結局はそうしていたのだ。彼らも私たちと同じようにずぶぬれになってしまった。「そのつもり」だけでは不十分なのである。

主は言われた。「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」(教義と聖約82:10) 繰り返し申し上げるが、そうしようと思っただけでは不十分なのである。

別な例として、ヨシュアを挙げる事が

できる。ヨシュアは、モーセの後任としてイスラエルを導くように召された。モーセが解任された後、主はその鍵をヨシュアにお与えになり、こう言われた。「あなたが生きながらえる日の間、あなたに当ることのできる者は、ひとりもないであろう。わたしは、モーセと共にいたように、あなたと共にあるであろう。

ただ強く、また雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためである。」(ヨシュア1:5, 7)

ヨシュアはすべての律法に従って行なうようにと言われたのである。

ヒラマンの若い兵士たちの場合も、戦いに勝つことができたのは、これと同じことを踏まえていたからである。

「一々の号令をみな正しく守って戦ったが、ついにその信じた通りになった。」(アルマ57:21)

彼らは「一々の号令をみな正しく守ったのである。すべての言葉と命令に従うこと、これが彼らの成功の鍵であった。天の力をいただくとするなら、そうしようという思いだけでは十分ではないことがわかりだろう。

一つ一つの号令をみな正しく守る必要があるのである。主のこの言葉を忘れないようにしよう。

「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」(教義と聖約82:10)

私たちは、実際に律法に従わなければならない。そうしようと思うだけでは不十分なのである。

アルコール中毒

——その理解と克服のために——

ジェームズ・R・グッドリッチ



愛する人が酒におぼれて
大切な絆を破壊し始めたら、
家族の人はどのように
助けたらよいのでしょうか。

先日、家族を連れて近くの教会に出席しました。私たちはそれぞれの集会を楽しんでいましたが、初等協会の時間に非常に興味深い、それでいて私を不安にさせる一場面がありました。

歌の時間のことですが、指揮者が何の気なしに子供たちにキャンディーを配って、こう言ったのです。「今配ったのは『歌の薬』です。これをなめれば、大きな声で上手に歌えますよ。」結果は大成功でした。しかし、私はこの何気ない出来事の裏に秘むものを感じて不安になりました。

私たちは薬に順応した社会の中で生活しています。アスピリン、風邪薬、胃腸薬、ニコチン、マリファナ、アルコール、ヘロイン、興奮剤、鎮静剤など、私たちのあらゆる障害を取り除いてくれる薬が数多く製造され、乱用されています。このような環境に置かれた人は、苦痛や不快感などというものは味わう必要のないものだと思ひ込み、人生のあらゆる問題は、歌を習うことさえも、少しの粉末か飲み薬、あるいは一粒の錠剤をのむだけで解決すると信じるようになります。

法律で認められていない薬を服用したり、処方薬や大衆薬を乱用したりすると、健康に重大な影響を及ぼします。しかし、何と言っても最大の問題は、アルコールの消費

にあるようです。

ミルトン・R・ハンター長老は、この点を的確な言葉で表わしています。「悪魔が人類の幸福を破壊するために用いた道具で、歴史上最も効果を上げたものは、アルコールである。」(Vital Quotation, エマーソン・ロイ・ウェスト編, p.10)

教会員はアルコールを口にしないように戒められていますが、教会員にとってこの言葉はどのような意味を持つのでしょうか。

教会員で飲酒をする人は全体のごく少数ではありますが、中には知恵の言葉を破って酒を飲み、自分自身や家族を深く傷つけてしまう兄弟姉妹がいます。

私は仕事柄、悲惨な状態に陥った教会員と話をする機会がよくあります。重症のアルコール中毒にかかった男性がこう言いました。「私は妻を失いました。酒をやめるようにどんなに言ってもむだだとわかると、妻は離婚して出て行きました。私はひとりです。仕事の同僚も、家族も、だれも信頼してくれません。何もかも失ってしまったのです。」

別の男性はこのように言いました。「酒を飲んだために、2台の車をめっちゃめっちゃにして、家族にたいへんな負担をかけましたが、自分が飲み過ぎているとは思わなかったし、助けを求める気などまったくありま

最初のうちは飲酒の悪影響がほとんど表
われない人がいますが、そこに悲惨なア
ルコール中毒の温床があるのです。

せんでした。」

またある姉妹は涙ながらに訴えました。
「家に帰るのが恐いんです。来る日も来る
日も、夫は酔って帰っては、私や子供をひ
どくたたきます。もうこんな生活に耐えら
れません。でも、夫を愛しています。立ち直
って欲しいんです。どうか助けて下さい。」

どうしたら解決できるでしょうか。愛す
る人が酒におぼれて大切な絆を破壊し始め
たら、友人や家族や周囲の人々は、どのよ
うな助けを与えることができるでしょうか。

それぞれの状況に応じて解決方法も様々
だと思いますが、以下に挙げる原則や指針
を理解しておけば、必ず役立つでしょう。

初めてアルコールを口にする理由は人によ
ってまちまちです。好奇心や反抗心から、
仲間の圧力に負けて、宣伝の影響を受けて、
など数え上げればきりがありません。しか
し、飲酒が習慣化していく過程については、
一般に以下の段階を経ると言えます。

1. 飲酒による一時的な快楽にひたる。

アルコールを飲むと、最初は快い気分
になるか、多幸感を味わうのが普通です。
精神的な緊張が和らいでくつろぎ、(自分
でもわかるように) 普段よりも活動的で
遠慮がなくなり、友好的になります。い
つもの自分とは違うのです。

不幸なことに、最初のうちは飲酒の悪

影響がほとんど表われない人がいます。

そしてそこに悲惨なアルコール中毒の温
床があるのです。

2. 飲酒による一時的な快楽を持続させよ うとする。

アルコールを飲むたびに一時的な喜び
にひたれるので、飲酒の機会を求めるよ
うになります。飲酒を続けるにつれて、
アルコールの作用によって孤独感や疎外
感、恐れ、劣等感、敗北感などの心の痛
みから一時的に解放されることがわかり
ます。しかし、酔いから覚めると元の状
態に戻ってしまうので、もう一度忘れる
ために飲酒を重ねることになります。

3. アルコールに対する耐性が現われる。

飲酒を続けていくと、しだいに多量の
アルコールを飲まないと、望んだ効果が
得られなくなります。この段階になると、
どれだけ自分が飲めるか、どれだけ飲ん
でも酔わないかなどと、自慢するようにな
ります。

4. アルコールに対する依存が現われる。

この段階になると、アルコールなしで
は生活できない状態になります。アルコ
ールを飲まなければ、まともに活動する
ことができません。

5. 飲酒の悪影響が現われはじめる。

大量のアルコールを頻繁に飲むので、



今まで表に現われなかった飲酒の悪影響がはっきりとわかるようになります。仕事の能率は低下し、家族関係は重大な危機に面します。本人は車を破壊したり、中毒状態に陥って愚かな言動に走ったり、留置されて罰金を科せられたり、妻子に乱暴したりすることがあるでしょう。

6. 精神的な苦痛を感じる。

上記のような行ないによって自尊心は失われ、いつも自責の念と罪悪感にかられ、精神的な苦痛に悩まされるようになります。

7. 飲酒による苦痛から逃れるために再び飲む。

これまでの悲しむべき経験から会得したことと言えば、苦痛を和らげるためにアルコールを飲むことです。あとはこの繰り返しです。ここに至って、自分が悪循環の渦に引きずり込まれていることに気づきます。最初の内は快い気分にはなりましたが、今や身体的な禁断症状と精神的な苦痛という悪夢に悩まされているのです。しばしば憂うつな気分におそわれて自殺を考え、希望をまったく失ってしまう人もいます。しかし皮肉なことに、諸悪の根源であるアルコールのことが頭から離れません。これが苦しみから逃れる唯一の手段だからです。

アルコール中毒の人は他からの援助を容易には受け入れませんが、友人や家族や主からの助けがない限り、この悪循環の輪から脱け出すことはほとんど不可能です。

まことに残念なことですが、家族や友人、

雇用主などが心配して善意の手を差し伸べても、かえってそれが問題をこじらせてしまうことが少なくありません。

私が扱った末日聖徒の夫婦、ジョンとスーザンの場合を例にとりて考えてみましょう。

結婚してから数年後に、ジョンは飲酒を始めました。スーザンは彼を愛していたので、あらゆる手を尽くしてそれをやめさせようとしていました。酒のびんや夫の札入れを隠して、飲み仲間から夫を遠ざけようと思いました。夫が酔っぱらって帰るたびに、そのおかしい振る舞いについて、他の人々に何とか言い逃れをしました。会社の上司に電話してこのような弁解をしようとしてしました。「夫は流感にかかって、今日は仕事に出られないと思います」子供にもうそをつくようになりました。「お父さんは仕事がいまうまいかなくて、とても悩んでいるのよ。」

子供たちはすぐに真相を知りました。家庭での圧迫感から友達を家に呼ばなくなり、父親の行動を隠すか言い訳をして、そのことが人に知られないようにしました。

スーザンも恥ずかしくて、監督のもとへ行けません。どうして、夫がお酒を飲んでいるなどと言えるでしょうか。

これとよく似た話が、何度も繰り返されています。そして、この話には驚くほど大勢の人が加担しています。まず監督は蓄えが底をついた家族に、食糧品や衣料品を支給し始めます。職場の同僚は、仕事が完全に終わるように助けたり、ジョンのような人が職を失わないように余分な責任を引き

受けたりします。雇用主は、解雇するのはクリスチャンらしくない、「もし解雇したら家族はどうなるだろう」と考えているので、見せかけだけの成果に目をつぶるか、あるいは繰り返し機会を与えます。

一般にこのような周囲の行動が、破滅への道を歩ませてしまうのです。当人は自分の行ないの結果から守られ、ますます飲酒を続けやすくなります。

ジョンとスーザンのような家族を助けるには、まず第一に、スーザンやその他関連のある人々と接して、事態を悪化させている彼らの行動要因を取り除くために必要な援助を与えることです。そして「忍耐の愛」すなわちたとえ傷つけることがあっても行なうべきことは行ない、本人がすべきことには決して手を出さない、そのような愛の表わし方を身につけることです。

「忍耐の愛」を表わすのは、いつも容易なわけではありません。沈黙を破り、愛と救済の確固たる精神をもって愛する人と向かい合うのです。これはたやすいことではありません。酔いつぶれた夫を一晩中いすの上に放っておいて、翌朝自分で身支度を整えさせる、妻にとってこれは実につらいことです。また、アルコール中毒の母親を持った子供が言い訳をする代わりに、「お母さんは酔っ払っているんだ」と友達に話す。これはどれほどつらいことでしょうか。

責任をすぐに人になすりつけるような人を扱う時、いつも冷静に接するのは難しいことです。事実、酔っぱらった人はたくみに責任を転嫁するようになります。たとえ

ばジョンですが、彼は自分が酒を飲むのはスーザンに落度があるからだと思い込んでいました。

スーザンは深く傷つき、しだいに怒りっぽくなっていましたが、ここに至ってようやく、夫の行動が何を意味するかに気づきました。アルコール中毒になるのはひとりの責任ではない、スーザンは心にそう感じると、自分の感情を抑え始めました。こうして、責任の転嫁やそれに伴う苦々しい思いを避けることができたのです。

しかしいずれにしても、酒を飲む人は自分の悪い行ないに対して責任を取る（言い換えれば、その結果を甘んじて受ける）必要があります。そうしない限り、自分を変えようという意欲はわいてきません。

非常に残念なことです。末日聖徒は酒を飲んではいけないと厳しく教えられているので、アルコールの罠にはまった人に対して辛辣な態度をとりがちです。過酷な意見、酔っぱらいという無分別な烙印、アルコールとそれが人に与える影響についての誤解、これらのものは援助の手を差し伸べる際の障害になります。

ジョンが教会の活動に参加した時のことです。近くに座った夫婦は彼の息が酒臭いので立ち上がって別の席に移りました。この時にジョンの感じた疎外感が想像できるでしょうか。もちろん、このようなことはいつも起こるわけではありませんが、ひとたび現実となれば、ジョンのような人を激しく傷つけてしまうのです。必要なのは助けであって、無視されることではありません。

いずれにしても、酒を飲む人は自分の悪い行 ないに対して責任を取る必要があります。

これは経験から学んだことですが、酔っぱらいも他の人と同じように尊い神の子供であって、ただ病気のために助けを必要としているだけなのだと考えれば、容易に手を差し伸べることができます。いかなる時にも増して、愛と関心と受け入れる態度が必要とされるのです。

デビッドという十代の末日聖徒が経験したことを、ジョンの場合と比較してみよう。

父親に面と向かって反抗したデビッドは、家の車を盗み出し、やけになって猛スピードで突っ走りました。そのためカーブを曲がりきれずに車は横転し、彼は重傷を負いました。幸いなことに、同乗者は軽いけがですみました。

家族とワード部の会員は、デビッドが回復するように断食して祈りました。ホームティーチャーは彼に特別な祝福を授け、その後もしばしば病院を訪れました。同乗していた少年とそれぞれの両親も見舞いに來て、デビッドの回復を祈りました。こうしてデビッドは少しびっこをひき、体に傷跡は残りましたが、無事に全快しました。彼が助かったことに対して、だれもが主に感謝しました。

デビッドは重大な過ちを犯しましたが、生命が危険にさらされた時、必要な助けを

得ることができました。それに比べて、ジョンの場合はひどいものです。ジョンはついに助けが必要であると悟って、アルコール中毒患者の治療センターへ入院しました。しかし、そこを訪れてくれたのは妻だけです。ワード部の会員は彼のために断食もしなければ、祈りもしませんでした。特別な神権の祝福を授けようとしません。やがて退院したジョンを待っていたのは、彼が酒をやめたことを疑って信じようとしない周囲の人の目でした。

純粋な愛や個人のフェローシップ、相手を理解する深い心、これらのものは問題を持って苦しむ人々の生活に祝福をもたらします。そして同じように、アルコールにむしばまれて苦しむ人々にも祝福をもたらすのです。

アルコール中毒と闘う人を助ける際に最も難しいことは、患者が元の状態に戻ってしまっても慌てたり落胆したりせずに、それをそのまま受け入れることにあると思います。もはや回復への望みも進歩もない、いっその事あきらめてしまおうか、こうした大きな誘惑を感じることも時々あるものです。

難しいことかもしれませんが、どこにも逃げ場のない精神的な落し穴に陥らないようにすることです。大きな心で問題を見ず

酔っぱらいも同じように神の子供であると考えれば、容易に手を差し伸べることができます。

え、必ず立ち直ることができるという明るい見通しを持つことです。家族の人は寛大な気持ちでわずかな進歩でも受け入れ、この問題は必ず克服できるという希望を常に持ち、互いに励まし合う必要があります。そしてもちろん、神からの助けを絶えず求めなければなりません。主は私たちをはるかに越えた洞察力を持って祝福を授けて下さいます。そして、福音に対する証が強まり、忍耐する力が与えられるでしょう。

忍耐力があれば、家族の人は患者が再び元の状態に戻っても、落胆したりせずに、引き続き愛をもって励ますことでしょう。

これは愛する人に働きかければ、必ず酒をやめさせることができるという意味ではありません。しかし、それでも原則を適用するのです。そうすれば、もしアルコール中毒の人が問題を克服できなかったとしても、少なくとも私たち自身の生活は改善されるでしょう。

家族の中で酒を飲まない人が早い内に手を差し伸べれば、ほとんどの苦悩は避けられます。大切な事は、関係者全員が進んでアルコールについて学び、アルコール中毒への過程や、無意識の内に飲酒へと迫いやる家族の態度について、できる限り多くの知識を得ることです。

家族にとって有力な助けになる人として、ホームティーチャー、定員会指導者、監督、

その他関係のある神権指導者や扶助協会の指導者、それにアルコール中毒から立ち直った教会員などがあげられます。

アルコール中毒の人にとっては、これらの助けに加えて、医療プログラム、抗酒剤、中毒患者の治療センター、更生施設などを利用することができます。心に銘記していただきたいのですが、専門家の助けを借りずにアルコール中毒を克服することは、多くの場合、ほとんど不可能なことなのです。大抵の地域では、家族が申し出さえすれば、アルコール中毒に関する問題を解決するために援助が与えられます。

以上の原則を適用すれば、様々な困難はあっても、有意義な道が開けます。すでに多くの家族が素晴らしい経験をしています。アルコール中毒を克服した人や、再び固く結ばれた家族を見るのは、実に喜ばしいことです。

主は次のように宣言しておられます。「人の値は神の前に大いなることを憶えよ。……汝らもし……唯一人の人たりともわれに導かば……汝らの悦び如何ばかりぞや。」（教義と聖約18：10、15）このみ言葉は、アルコール中毒の人のために働く時にそのまま当てはまるものです。私たちが主の助けを受けて、アルコールに冒されている人々の生活に祝福をもたらし、回復への真の希望を与えることができますように。

調 べ なる 妙

キャサリン・ルーベック



曲が始まると、聴衆はリズムに合わせて靴を踏み鳴らし、頭を振り、椅子に座った子供たちも足拍子を取り始めます。会場は演奏と共に熱気に満ち、人々は曲の世界に引き込まれていきます。そしてコンサートはいつの間にか終わりに近づき、聴衆の喝采、口笛、「ブラボー!」「アンコール」の大歓声が響きわたり、アンコール曲が1、2曲演奏されるのです。

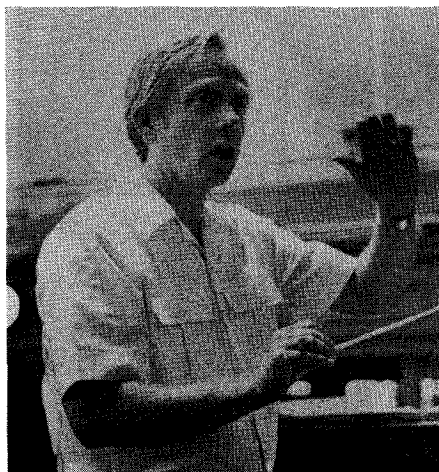
行進曲、ディスコ・ミュージック、甘美なポピュラー音楽のメドレー、聞く者の心

を安らかにする讃美歌『主はわが羊飼』など、演奏曲目のいかんを問わず、「モルモン・ユース・シンフォニー・アンド・コーラス」は何か不思議な力で人々を魅了しています。もちろん彼らの奏でる音楽そのものも魅力ではありますが、それ以上の何か、つまり音楽を媒体として通い合う何かがあるのです。彼らは並みのグループではありません。そのことは聴衆の方も敏感に感じ取っています。

音楽教育協議会に名を連ねるある人は、

レスピーギの作品『ローマの松』の演奏を聞いた後で、「この曲はニューヨーク・フィルやシカゴ・シンフォニーの演奏で聞いたことがあります、聞きながら涙が出てきたなんて始めてのことです。一体どういうことなのでしょうね」と尋ねてきました。

また、最近カリフォルニアで行なわれたコンサートでは、教会外の人がこういう感想をもらっていました。「この楽団の若い人たちは音楽的に優れているだけでなく、善良さがにじみ出ているという感じですね。



本当に驚きましたよ。一体どういう人たちなのですか。」

さて彼らは、年齢は16歳から30歳、職業も法律や医学を専攻する学生、高校生、一般の大学生、銀行員、電気技師、植木屋、教師、花屋、印刷業者、会計士など、実にバラエティーに富んでいます。また、独身者もいれば既婚者もいますが、375名全員が優れた音楽家です。そして、最も大切なのは、彼らが自分の証を音楽を通して分かち合いたいと考えていることです。

「皆さんも入ってみればわかりますが、この楽団のメンバーは単に音楽的な理由だけで集っているわけではありません。私が入団した動機は、私の音楽的才能を伝道の道具として使いたかったからです」と語るのには、タバナクルで行なわれた演奏会で何度か独奏したこともある、第一バイオリン奏者ケビン・コール兄弟です。

合唱隊の一員のジャニス・コール姉妹も同じ意見です。「立派に上演できた時には、『みたま』を非常に強く感じます。今は与えられた才能を一生懸命に伸ばして、皆さんがもっともっと主に近づくように、そのお助けができればと思っています。」

「歌っている時のあの浮き浮きした気分は、ちょっと言葉で言い表わせませんね。」これはユース・コーラスの4人姉妹のひとりキャシー・ブロードベント姉妹の言葉です。彼女はこう続けています。「たったひとつ言えることは、本当に天のお父様を愛しているということです。自分にも主のためにできることがあるのだ、主が与えて下さった才能を使っているのだ、と思うと、とても胸が熱くなります。そうです。音楽を通して、耳を傾けて下さる方々の心の琴線に触れているのです。」

この楽団の影響力には測り知れないものがあります。彼らの事務所には、他の楽団に見られない素晴らしい秘密を教えて下さいとか、教会についてもっと知りたいのですが、とかいった手紙が毎月たくさん寄せられています。でもその感動の源が何かを本当に理解できるのは、人々が心を変え、改宗した時なのです。

教会員になったために、二度と家の敷居をまたがないようにと言われた女性がいます。彼女は母親を説得して公演会に行かせ



ました。すると、母親の教会に対する態度がすっかり変わりました。「今ではもう家に帰ることもできるようになりました」と、その女性は語っています。3年間教会の勉強を続けていた男性がいますが、この人はカリフォルニアのサクラメントで行なわれたこの楽団の公演を聴いて教会に入ろうと決心しました。また、カリフォルニアのモデストに住むある夫婦は、モルモン・ユースの公演を2度聴いてみたまに強く心を動かされ、教会に入る決心をしました。

この楽団は海外においてもその力を発揮し、人々を魅了しています。モルモン・ユースのクリスマス特別番組は、フランスで採り上げられた最初の末日聖徒の番組になりました。しかも、これがテレビで放送されてから、さらに3つの番組から要請がありました。ノルウェーでもテレビで放映されましたが、その結果、以前は宣教師をか

たくな拒んできた多くの人々が、心を開くようになりました。7月4日に合衆国で放送された二百年祭特別番組では、視聴率が全国第3位となり、これをきっかけに、あるニューヨークの資産家は、全団員によるソビエト公演旅行を提案し、費用を全額持ちたいと申し出てきました。この楽団がいかになんかの心を動かし、伝道活動を助けてきたかは、まだまだいろいろな話があります。

楽団の指揮者であるロバート・ボーデン兄弟はこう語っています。「私たちが毎週出演するラジオ番組だけでも、合衆国、カナダ、それにヨーロッパを合わせて、聴取者の数は推定で1億4千400万人に上ります。公演は年に20回、またテレビの特別番組も年に1、2回はあります。現にそうした番組のひとつで、私たちはリージョナル・エミー賞を獲得しました。

そうした忙しい公演のスケジュールと、週1回の練習のために、楽団員は大変な献身を要求されます。モルモン・ユースの一員であることが教会の召しであると言われるのはこのためです。

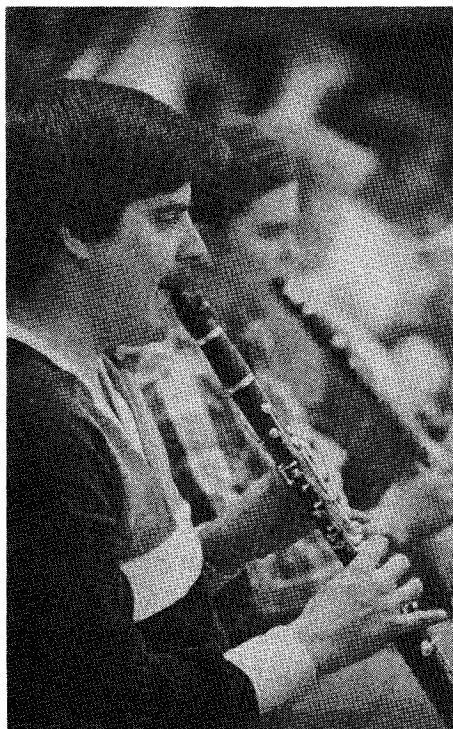
「モルモン・ユースは働くための組織であって、親睦を目的とした組織ではありません」とボーデン兄弟は語っています。「私はオーディションに来た人々に、もし社交的親睦ということを目的にしているのなら、場所を間違っていると教えてやります。私たちは教会と伝道活動のために働いているのです。」

土曜日の午前中に練習をして、翌週の土曜日にはそれをレコーディングするという

ようなことがよくあります。これを行なうには、一流の演奏家であって、楽符をよく読みこなせる人でなければなりません。私はこの楽団が持っている力に驚いています。彼らは、主に任えているという自覚のもとに、可能な限り洗練されたものに近づけていこうと努めているのです。」

演奏旅行をする時には、いろいろな苦勞があります。通常、少なくとも1日に1回は公演があります。そして移動の途中は食事をとるのに行列を作ったり、ほとんど睡眠がとれなかったりで、その疲労は大変なものなのです。

アルトのリンダ・テイラー姉妹はこう言っています。「演奏旅行で一番辛いのは、と



ても疲れることです。リラックスできる時なんてほとんどありません。それでもいざ歌う段になると、辛いことはすっかりどこかへ消え失せてしまいます。『主は生けりと知る』を歌う時は、いつも身が引き締まるような気がします。」

食事はワード部の文化ホールでとったり、主催者の家庭で御馳走になったりすることがよくあります。あるいは訪問先の町々でそれぞれ自分で食事をとりに出かけます。「バス7台分の人間がひとつのレストランへ入ることなどとてもできませんからね。演奏旅行をするためにはかなりの時間をかけて綿密な計画を立てる必要があります。」そう語るのは、楽団長のレイ・ファーガソン兄弟です。

旅行での楽しみのひとつは、教会員の家庭を訪れることです。テナーのジム・ラムルー兄弟はこう言います。「観光も確かに楽しいですが、僕の場合は教会員の家庭に滞在することが一番ですね。

どの家庭でもまるで家族の一員のように迎えてくれるんですね。それに何でもしてくれます。ですから別れる時には、もう生まれた時から一緒のような感じです。」

地元ではもちろんのことですが、彼らは旅行の間でも、必ずと言ってよいほど、人人に大きな影響力を与えています。昨年の夏、カリフォルニア演奏旅行の最後になって、7人のバス運転手（その中の幾人かは末日聖徒）が一緒に集まり、その中の代表者が楽団のメンバーに次のように言いました。「私たちは皆さんと一緒に旅ができたことに感謝の意を表したいと思います。女性の方々全員にバラを用意しました。このような素晴らしい楽団にお供できた感謝のしるしです。」そして、若い女性たちに14ダー

スのバラが贈られたのです。

ボーデン兄弟はこう言っています。「音楽には非常に強い力があります。だれでも、教会へ行き、讃美歌を聴いて涙を流したことが何回もあるでしょう。音楽は、人々の心を天父に向かわせもすればサタンに向かわせることもあります。音楽の使い方には注意しなくてはなりません。

メンバーは皆、自分の才能をどう生かすべきかちゃんとわかっています。自分たちがしていることの意味をきちんと理解してるんですね。ひとつの曲を渡すと、いつも期待以上のものが返ってくるんですよ。それは、彼らが音楽の真髄を心で感じ取っているからなんです。それが証拠に、聴いている人たちは物音ひとつ立てませんし、音楽を体で感じ取って、こう言っています。『これはすごい、よく聴いてごらんよ！』このような仲間と行動を共にできるとは本当に素晴らしいことです。」

楽団員も全く同じ考えです。現在、メンバーになるには登録してから1年半もかかりますが、皆それを苦にしないで待つのは、それだけのものがあるからなのです。また行こうと思えばスキーにも行けるのに、土曜の午前をすべて犠牲にして練習する理由もそこにあるのです。

打楽器奏者のスティーブ・ダンカン兄弟はこう話してくれました。「モルモン・ユースの一員であること、また皆さんに演奏を聴いていただけることをうれしく思っています。こうした特権について考えると心の中一杯に、とても大きな喜びが広がってきます。私にとってこの道を歩むことは、天国へのひとつのステップなんです。長い時間をかけて犠牲を払うだけの価値がありますよ。」

教会福祉事業部

救援物資、 ポーランドへ向けて

教会は物不足で悩むポーランドへ医薬品や食糧を送って援助を行なっている。

ソルトレーク・シティーからワルシャワに向けて積み出された最初の荷は病院用の乾燥消毒剤で、溶解すると約10万ガロン(373キロリットル)の殺菌剤としてポーランドの医療施設で利用できる。

さらに5万ポンド(22,680キロ)の粉ミルクと2万ポンド(9,070キロ)の粉末チョコレートミルク、同じく2万ポンドの乾燥食糧が積み出されることになっていると福祉事業部代表のグレン・ペイス兄弟は語っている。これは金額にして9万ドル(約2千万円)に上る。

またペイス兄弟は、ユタ州プロボに本部を置く国家慈善機関のポーランド食糧援助担当官に、洗浄剤やその他の医薬品を購入



ポーランドへ送られる救援物資

できるようにと5,000ドル(約115万円)の小切手を渡した。

これまでに教会は、大きな災害が発生した際、困窮者に援助の手を差し伸べるために救援活動を行なってきた。緊急事態の時の救援は、教会員、非教会員を問わない。例えば、チリやグアテマラ、エカラグアの大地震、オーストラリアの洪水の際に救援物資を送っている。(チャーチニュース、3月2日付)



前扶助協会会長 スパッフオード姉妹逝去

ベル・S・スパッフオード姉妹は、長い闘病生活の末、2月2日ソルトレーク・シティーのユタ病院で逝去した。86歳。

スパッフオード姉妹は1945年4月6日に扶助協会中央管理会会長に召された。30年の会長としての在任期間中、初めは会員10万人の西部アメリカの単なる婦人団体にすぎなかった扶助協会は、65カ国、90万人からなる世界的な組織となった。

大阪堺ステーク部

3月17日、十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老の管理の下に開かれた大阪ステーク部大会で、大阪ステーク部が分割され、新たに大阪堺ステーク部（第21番目のステーク部）が組織された。

ステーク部長／高吉弘志（写真中央）
第1副ステーク部長／小松忠（写真左側）
第2副ステーク部長／服部昌和（写真右側）
幹部書記／京谷 隆
書記／高林武雄
祝福師／平川友正（敬称略）

管轄ユニット：

堺第1・堺第2・堺第3・羽曳野・和歌山ワード部、岸和田・飛鳥・音坊・田辺・金剛支部

新たにふたつのステーク部誕生

東京西ステーク部

3月21日、十二使徒定員会会員のデビッド・B・ヘイト長老の管理の下に開かれた東京ステーク部大会で、東京ステーク部が分割され、新たに東京西ステーク部（第22番目のステーク部）が組織された。

今回の分割に伴って町田ステーク部のステーク部長に森村久男兄弟が召された。

ステーク部長／青柳弘一（写真中央）
第1副ステーク部長／松本潔（写真左側）
第2副ステーク部長／品川文弘（写真右側）
幹部書記／津村又三郎
書記／八木最一
祝福師／原 謙（敬称略）

管轄ユニット：

八王子・八王子第2・国立・府中・甲府ワード部、調布・立川・甲府・富士吉田支部



大阪堺ステーク部ステーク部長会



町田ステーク部
ステーク部長
森村久男兄弟



東京西ステーク部ステーク部長会

◎4月12日付をもって、4人の地区代表の担当地区が以下のように変更になった。

柏倉仁長老：名古屋・名古屋西・大阪・大阪北・大阪堺・神戸ステーク部担当

安芸宏長老：広島・高松・福岡・沖縄ステーク部担当

田中健治長老：札幌・札幌西・仙台・高崎ステーク部担当

鈴木正三長老：東京・東京北・東京南・東京西・東京東・町田・横浜・静岡ステーク部担当

弘前城雪燈籠祭りに

とうろう

「キリスト像」

弘前では去る2月7日から12日まで、東北五大祭のひとつである「弘前城雪燈籠祭り」が開催されました。この祭りは毎年50万人以上の人が訪れる大規模なものです。

私たち弘前支部でも、この祭りに参加するのが恒例となっており、今年も雪燈籠二基、雪像一体を製作しました。特に雪像は、両腕に子供たちを抱き寄せているイエス・キリストを型どり、高さ3.5メートル、幅2メートルのかなり大きなものになりました。

製作にあたっては、例年の宣教師主体から今年は会員主体の作業となりました。暖冬で降雪量が少なく雪質も悪いという悪条件の中、兄弟達は、姉妹達の暖かい手料理に励まされながら、毎晩遅くまで寒さの中、雪と取り組みました。市の観光課の方々や自衛隊の方々のアドバイスもあり、1週間で何とか完成し、会員一同、大きな満足感と喜びを経験しました。そして来年ももっと良いものを作ろうと抱負を語り合いました。（盛岡地方部弘前支部からのお便り）



製作に励む弘前支部の会員



高さ3.5メートルのキリストの雪像



「若い女性」現場からのレポート

目を見張る「成長する私」の 影響力

土田 準子

(名古屋ステークス部名東ワード部)



私が若い女性の会長に召された時、彼女たちのために用意されている「成長する私」を、示された形のままで導入してみようと決心し、このプログラムに取り組むことを彼女たちにチャレンジしたところ、大いに賛成してくれました。その時から、彼女たちの尊い変化についての報告を幾つも耳にするようになりました。毎週の集いで達成状況を報告する段になると、彼女たちの目の輝きも増し、お互いの成長を喜び合えるようになって連帯感も強くなりました。

また彼女たちの家族の次のような反響にはとても興味深いものがあります。①急に娘がトイレの掃除を始めたので、雪でも降るのではないかと驚いたが、それが毎日続いているので驚きが喜びに変わってきた。②自主的に家の手伝いをするようになった。③高校生になったら教会をやめさせるつもりであったが、「成長する私」の目標を知り、今では続けさせるつもりでいる。④感情的だった娘が自分を抑えることができるようになった、など。

神様が彼女たちをどんなに祝福して下さっているかを感じないではいられません。彼女たち自身もこのプログラムを進めるようになってから、全員がなぜ教会があり、そこに集う必要があるのか体得できるようになり、神の娘として持っている自分の可能性がどんどん引き出されていることに喜びを感じられるようになりました。ある少女は学校の友人にこの喜びを話しました。すると、友人は、このプログラムに参加するようになり、バプテスマさえ望むようになりました。また奉仕活動も、心を込めて行なっ

た時には、大きな喜びで満たされ、満足感を覚えることができるとの証を持つようになりました。

「成長する私」のプログラムが確かに予言者の啓示の下に私たちに与えられた神の賜であること心から確信し、証致します。また「成長する私」のプログラムは教会外の人の心にも深い感銘と理解を与えるものであることをよく体験できました。これからもさらに少女たちの心を思いやり、両親の理解を得て、このプログラムを定着させていくつもりであります。



「若い女性」に なつて

相良なおみ(中学1年)

今、私たち若い女性は「成長する私」のプログラムに参加しています。これは6つの分野で目標を決めて、達成できるように努力するプログラムです。それは本当に努力が必要です。でもこのプログラムに参加しているおかげで、私は自分自身のことがほとんどできるようになりました。学校やその他の所で、若い女性の活動や「成長する私」で学んだことが生かれます。自分では気がつかないうちに、良い習慣が身につくようになりました。これらの良い結果は、神様の祝福があるので得られたものだと思います。これからも一生けんめいがんばりたいと思います。(名古屋ステークス部名東ワード部)



改宗して半年間に学んだこと

太田徳子（高校1年）

昨年10月にバプテスマを受けてから毎週日曜日に教会に集い、いろいろなことを学びました。当たり前なことばかりだと思いましたが「成長する私」に参加することによって、その当たり前なことがきちんとできていなかったことに気がつきました。

「成長する私」の中で私はふたつの目標を立てました。ひとつは靈性、もうひとつは奉仕と慈善の分野です。私は時々お祈りすることを忘れるので必ず毎朝夕、祈ることを靈性の目標にしました。奉仕と慈善の分野では、家庭で食事の後片付けと洗たく物を取り入れてタンスの中にしまうこと、そして若い女性のクラスのみんなで決めた毎週土曜日の3時に教会に行き台所とトイレ、玄関を掃除することを目標にしました。これまで1回も休まずに奉仕することができました。また弟がけんかをしかけてきても、がまんして許すこともできるようになりました。

私はこれまで心の中で「こうしなければいけ

ない」と思っていたとしても、ついはずかしくてできないことが多くありました。でも今は、そんなことはほとんどなく、家の中の手伝いも少しずつ増やしながらかやっています。私がこのようになったのも、末日聖徒イエス・キリスト教会が本當の教会であるからだと思います。

今年はセミナリーでいろいろ学んでいくと思いますが、神様の娘として努力しようと思います。そして、まだこの教会を知らない人たちが少しでも多く教会へ集うことができるようにと願っています。（名古屋ステーキ部名東ワード部）



▼名東ワード部の若い女性たちの発表



ボクは暴走族だった

吉兼法雄
（名東ワード部）

僕はこの教会に入る前は、暴走族に入っていて、俗にツッパリと呼ばれる仲間と遊びまわっていました。

昨年8月24日、友人3人と信号待ちをしていると、宣教師であるピーターソン長

老と土谷長老が何を思ったのか僕たちに話しかけてきました。僕はその時、家族全員が創価学会員という環境にあったので、最初は断わりました。しかし友達のからかい半分の「モルモンだかや、おもしろいで話

聞きこまい（聞いてみよう）」という口車に乗せられ、話を聞きました。最後に宣教師から住所と名前を聞かれて、黙っていたのですが、友人のひとりが教えてしまい、結局続けて話を聞くことになりました。

レッスンを受けるたびごとに興味が深まり、バプテスマを受けて見ようかとも思うようになったのですが、「知恵の言葉」の戒めを教わった時、酒もタバコも全部やっていたので、守れるかどうか不安でした。一緒にレッスンを受けていた他の3人の友人たちは、この戒めを受け入れることができず宣教師の元を去りました。しかし、僕は迷いながらも8月30日にバプテスマを受けました。

教会に入ってからいろいろな試練がありました。初めは賛成してくれていた両親が急に反対し始めたり、祈りの最中に妙な寒けを感じたり、僕がモルモンだということで友人たちから無視されたりしました。またある時には、以前の友人から「モルモンをやめろ！」と顔にタバコの火をつけられて、やけどをしました。まるで神様が本当に生きているのかどうか、僕自身の証に対して、次々と試しを受けているかのようでしたが、宣教師のルーク長老から「イエス・キリストも、ジョセフ・スミスも、吉兼兄弟より何十倍もの迫害にあっても耐えてきたんだから、吉兼兄弟も頑張りなさい」と励まされ、勇気を持ち続けることができました。

バプテスマを受けて2カ月程した日曜学校のクラスで、自分の欠点を少しずつなくすように努力し、人から注意を受けたらそれを素直に直すことがいかに大切か学びました。その日、聖餐会の後である兄弟から注意を受けました。もし、日曜学校のレッスンを受けていなかったならば、「なんでこんなことを言われなあかんのだ」と怒った

と思いますが、不思議なことに、その兄弟が僕の事を思ってくってくれるのだから直さなくてはとの気持ちがあふれてきました。

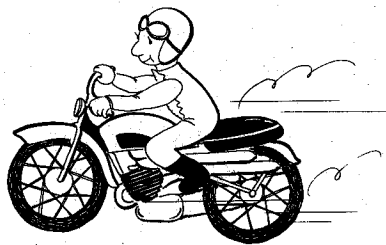
また家に帰り食事をしていると、姉に「あんたモルモンなのに食事を作った私にお礼の一言も言えないの」と怒られました。いつもの僕なら反抗していたと思います。でも、自然と心からあやまる気持ちになりました。

先日、兄や姉から「法雄は本当に変わったね。モルモンに入るのはかまわんけど、男なら最後まで頑張らなくては……」と言われました。

宣教師と会ってから、自分でも驚くほど生活、性格、すべてが変わりました。今までいろんなチャレンジにあいながら教会にきているうちに、ひとつ、とても大切なことを学びました。それは、自分が努力するならば神様が私たちの生活、性格をも変えて下さることがわかったのです。これは最大の奇跡とも言えるものです。

僕を改宗へと導いて下さった土谷長老が最後のレッスンで、「私たちは前世から約束を受けた『ダイヤモンド』だから決して不活発にならずに、ダイヤモンドを信仰によって磨きましょう」と言って下さいました。

回復された完全なイエス・キリストの福音によって変えられたことを深く感謝しています。イエス・キリストのみ名により証いたします。アーメン。(よしかね・のりお 16歳)



読者のひろば

ある日、電車の中で

ある日、電車の中で「聖徒の道」を読んでいると、突然隣から「キリスト！」という声が聞こえました。びっくりして顔を上げると、隣にひとりの女の人が座っていました。彼女はキリスト教に興味を持っていて、思わず声が出てしまった様子でした。私はモルモンについて少しお話し、別れる時に彼女がとっても気に入ったらしい「聖徒の道」をプレゼントすると、ものすごい喜びようで私の方が驚いてしまいました。

それ以後、彼女とは文通していますが、一日も早く真理を理解して欲しいと思っています。またこのように「聖徒の道」から思わぬところで友達が得られ、とてもうれしく思います。

「聖徒の道」は私にとって特別な本です。主から心が離れてしまい、正しい決心ができない時、「聖徒の道」を読んでいると間もなく心の中に平安と喜びが訪れ、本当にうれしくてたまらなくなったこともありました。一人一人が完成へ向けて成長していく時に、主からのアドバイスである「聖徒の道」は特別な本として大きな助けとなることを証します。(広島ステーク支部・多胡紀代美・20歳)

我が家の愛読書

毎月待ち遠しいものに「聖徒の道」がある。四大聖典を主食とすれば「聖徒の道」は副食と言いたい。そのメニューは多彩で美味である。しかし少しもこの世の贅や沢がない。まっ先に箸をつけるのは妻である。(老妻と言ったら叱られた) 丹念に第1頁から味わっている。私は職場で昼休みに精力的に読むようにして

いる。息子や娘も折々に黙々と頁を開いているようだ。

読むほどに聖典の時代背景や意義が釈然としてきて咀嚼にうまみが加わる。多くの指導者や会員の人生経験や信仰生活を知ってわが身と心を縮めたい思いにかられることが多い。

私たちの日常生活の中にあつて、「聖徒の道」はリアホナのように私たちを楽しく、義しく、幸せな心へと導いてくれることに深く感謝している。(札幌ステーク支部札幌第5ワード部・小玉資雄・68歳)

どんな小さな祈りでも

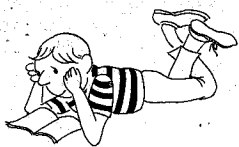
私は毎月「聖徒の道」が配達されるのを楽しみにしている会員のひとりです。私にとって「聖徒の道」は四大聖典と同様に素晴らしい、「高価な真珠」です。

現代の生ける予言者、スペンサー・W・キンボール大管長の愛にあふれたメッセージを読む時、心に平安と勇気が与えられます。また目まぐるしい日常生活の中で何が大切か、何を守るべきかを教えてくれます。特に3月号の「常に祈りなさい」とのメッセージを読んで、祈りがどれほど大切なものであり、どのような時に、どのように祈ればよいのか再度認識を新たにしました。

どんな小さな祈りでも誠心誠意祈り続けることができるように、自分を整えたいと思います。(高松ステーク支部徳島ワード部・阿部政信・41歳)

子供たちを教える指針として

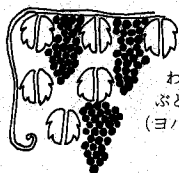
改宗してから今日までずっと愛読しているひとりです。「聖徒の道」を通して学び、



悔い改め、証が強められ、みたまを感じて安らぎを覚えたことは数多くあります。

子供たちも成長し、夜、家族の祈りの後しばしばみんなで「聖徒の道」を読みます。子供を教育していく上でとても良い助けになります。現代に必要な事柄を予言者や他の指導者を通して教えられるからです。

両親と離れている若い人々は両親に毎月「聖徒の道」を送ってあげるとよいと思います。「聖徒の道」を目にすることによって両親は、自分たちから離れて生活していても、教会へ行っていれば安心だと思うようになり、自分もその教えをもっと学びたいと感じる時が来ると言うからです。(町田ステーク部町田第1ワード部・杉本道乃・45歳)



わたしは
ぶどうの木。
(ヨハネ15：1-11)

弱点を克服するために

バプテスマを受けて間もなく、ある兄弟から「聖徒の道」をプレゼントされました。アパートに帰ってそれを読んだ時、強く霊的な感動を受け、頁の余白に「みたま」に感じた事柄をメモしたことを覚えています。以来11年間、「聖徒の道」は様々な信仰の浮き沈みの時に私を守ってくれています。

弱点を克服するために必死に、大管長のメッセージから答えと勇気、信仰、証を得ようとし

ました。主の「みたま」を感じずに「聖徒の道」を読んだことは一度もありません。いつも、末日聖徒イエス・キリスト教会が唯一の神様の教会であり、大管長が神様から召された予言者であるという証を受けることができます。(広島ステーク部福山支部・水田正・30歳)

新しいぶどう酒は新しい皮袋に

「天」が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。」(伝道の書3：1)

毎月手許に届けられる「聖徒の道」。それぞれの月の号が、その時にかかえている問題の解答を与えて下さるという証を持っています。その時々家族の問題などを解決しようとする時、「聖徒の道」からの引用が大変役立ちます。そこには現代社会の諸問題に適応したメッセージがあるからです。

新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなくてはなりません。現在の時に相応しい感覚と、言葉とで、現代の予言者は主の戒めを、啓示を、語って下さっています。

それを今、現に抱えている悩みの答えとして受けとる時、その迫真性に涙することも再三あります。これこそ現在私たちに発せられている主の御声であると思っています。(大阪ステーク部奈良ワード部・長栄千枝)

★このページへのご投稿をお待ちしています。
「聖徒の道」にまつわる出来事、ご感想をお寄せ下さい。イラストも大歓迎。年齢・電話番号も忘れずに記入して下さい。宛先：〒158 東京都世田谷区上用賀4-9-19/東京ディストリビューション・センター/「聖徒の道」編集室

よろこ
うた
慶びの詩

徳沢 愛子
(北陸地方部金沢第1支部)

我等 今 広大な宇宙の
ささやかな一つの星に立ちて
小さくも晴れやかな宴の中にあり
我等 今 若い二人に真向い
我等 今 夢みる二人に真向い
信仰篤き花婿と従順なる花嫁に真向い
その同胞囲み 寿ぎの中にあり
二つに歩み来し道は 今一つに続きたり
一つになりし道は 遙かへうねりたり
喜ばれし息子よ 喜びし息子よ
喜ばれし娘よ 喜びし娘よ
彼方はおぼろの露のうちにかすむとも
今 大地に立ちて
今 なすべき業にいそしめ
魂によき言葉伝え

魂によき歌響かせ
ほほえみ 注ぎ
光の中を歩みゆけ
いつの日か幼な子もいくたりか
高らかに笑い声たちのぼらせ
その道を共に歩む姿 我等いつか見ん
その嬉しき日をたずねゆき
おぼろの露を出でて
小さくも晴れやかに立つ
一つのうるわしき家族を
我等 いつか見ん
広大なる宇宙の中の
日の栄光に座す喜びの家族を
我等 いつか共に喜ばん



「キリストが私たちの先祖に
次の言葉を仰せになった
『何ごと^{なんじ}にても汝ら^なが為されんと信じ
信仰堅固にわが名によりて
御父に乞い求むることは、
それが正しき限り
汝らに為さるべし』と。」
（モロナイフ：26）